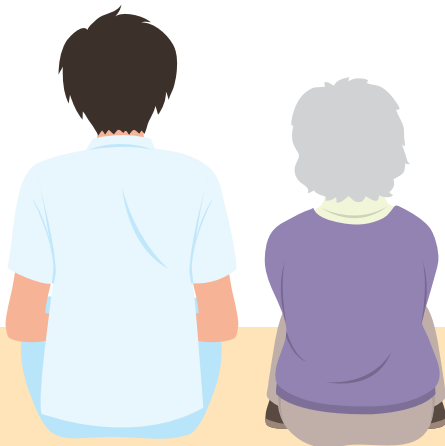


JJAOT

2023
8

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)
日本作業療法士協会誌



トピックス

日本作業療法士協会の新しい事務局体制

【会長メッセージ】 障害者虐待の防止および
権利擁護のさらなる推進のために

2023年度 名誉会員表彰・特別表彰

生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ

2023年度 専門作業療法士資格認定審査

認定作業療法士取得「臨床実践能力試験」

2023年度 認定作業療法士資格再認定審査（試験）の概要

【会長メッセージ】

障害者虐待の防止および権利擁護のさらなる推進のために

今年になり2件の障害者虐待事案が報道されました。医療現場の支援者が行った、障害のある方に対する重大な権利侵害です。理事会は4月以来これらの事件を踏まえて検討を重ね、会員向けにメッセージを発信することを決定しました。本会会員には一斉メールで配信し、協会ホームページにも掲載しています。ぜひ周囲の方々と共有してください。

作業療法士の皆様へ

障害者虐待の防止および権利擁護のさらなる推進のために

近年、医療従事者による障害者の虐待事件*が立て続けに起こっています。日本作業療法士協会は、当事者の活動と参加を支援し、ご本人の望む生活の実現に向けて共に歩むことを旨としている作業療法士の団体として、これらの事件を看過することができません。虐待があってはならないことは当然ですが、本来ならばむしろ障害のある方々の権利を積極的に擁護し、ご本人たちの幸せのために業務に専心すべき立場にある者がそれを行ったという点で、到底許されるものではなく、ただただ強い憤りを覚えます。これを機に、日本作業療法士協会は会員の皆様と次のことを共有いたします。

まず、これらの事件において何が起きたのか、一人一人の作業療法士がしっかりと情報を得て、なぜこのような事態になるまで放置されていたのか、事件を未然に防ぐことができなかったのかを、他人事ではなく我が事として考える必要があります。

次に、障害のある方に対する虐待の防止と人権擁護について、私たちが必要十分な知識をもち、正しく理解できているかを自己点検してみましょう。そして日本作業療法士協会が掲げている倫理綱領と職業倫理指針についても再確認をお願い致します。

私たち作業療法士は、子ども、障害のある方々、高齢の方々をはじめとする誰もが安心して生活できるための社会づくりを目指しています。それを一歩でも着実に前に進めるためには、一人一人が絶えず作業療法の理念に立ち返り、「人々の健康と幸福を促進するために」日々の実践を丁寧に積み上げていくことが何よりも大切です。私たちはこのことに深く思いを致し、作業療法士としての社会的役割を誠実に果たしてまいります。

皆様のご理解とご協力の下、日本作業療法士協会としてもその実現を目指して活動を続けてまいります。

2023年7月

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 山 本 伸 一

*滝山病院（東京都八王子市）、ふれあい沼津ホスピタル（静岡県沼津市）などの精神科病院で、2022年、看護師らによる暴言・暴力・身体拘束等が明らかになった事件

2 追悼 名誉会員 鎌倉矩子先生

トピックス

8 日本作業療法士協会の新しい事務局体制

連載

20 学会 NOTE ④

▶ 学会の見どころと番外編！

24 Front line APOTC2024 ⑧

▶ APOTC2024 の日程表をご確認ください！

12 代議員選挙を12月に実施します

13 2023 年度 名誉会員表彰

14 2023 年度 特別表彰

15 学術誌『作業療法』第 43 巻 1 号～ 6 号 (2024 年 2 月～ 12 月発行) 紙媒体の配付希望受付について

16 生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ

23 第 4 回日本-台湾作業療法ジョイントシンポジウム 開催案内

26 事務局からのお知らせ

27 各部の動き

28 委員会の動き

30 協会活動資料

▶ 2022 年度 教育関連認定審査結果

▶ 2022 年度精神科における作業療法実態調査 結果報告

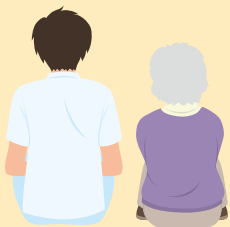
42 2023 年度第 4 回定例理事会 抄録

44 2023 年度協会主催研修会案内

46 求人広告／計報

47 日本作業療法士連盟だより

48 編集後記



追悼 名誉会員 鎌倉矩子先生

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



元日本作業療法士協会会長・日本作業療法士連盟会長 杉原 素子

「2023年6月17日8時48分、鎌倉矩子先生ご逝去」との報が、日本作業療法士協会理事会に届き、理事の一人から、その連絡を受けました。連絡を受け、深い、長い、暗い穴に落ちるような体感を覚えました。2023年1月20日18:00～20:30に、本会主催の春秋受勲者4人（寺山久美子、鎌倉矩子、富岡詔子、杉原素子。敬称略）の講話の集いがZoomで行われた際、いつも通りの鎌倉先生が画面に登場していました。

「鎌倉矩子」は、日本の作業療法士たちが耳にしたり、目にしたりすると一瞬、背筋を伸ばしてしまうほどの緊張をもたらす人の名前でした。鎌倉先生が著わした論文や書籍等は、日本のみならず海外でも高い評価を受け、国際的に貢献できる作業療法研究でもありました。鎌倉先生は、本会会員番号81であり、日本の作業療法士と本会の礎を築いた方々の一人でした。

私が作業療法士の資格を取得する前に、医師の五味重治先生の紹介で整肢療護園に出向き、寺山久美子先生や鎌倉矩子先生に挨拶し、話を伺ったことがありました。その時、鎌倉先生から、「作業療法領域はすでに優秀な人たちがいるから、違う職種にしたら」と言われました。強烈なこの言葉に、私は鎌倉先生の顔ではなく、帰り際の先生の長めのスカートを履いて遠ざかる後ろ姿を眺めていました。結局、私は作業療法士の道を選びましたが、後になって、この時のことを恨めしげに鎌倉先生に伝え、「あら、そう。全く記憶にないわ!」との言葉がありました。

また、私が本会会長に立候補した石川県金沢市の総会でのことですが、会長候補者が3人おり、最終的に2人の決選投票となりました。鎌倉先生は私の応援演説をしてくださいました。この時期、現在もそうですが、鎌倉先生の実存は本会にとって絶大でしたから、私は鎌倉先生のおかげで当選できたと思っています。この選挙の際、私が立候補の演説を行っている時に緊張し、出かかった言葉を突然忘れ、隣におられた鎌倉先生に「次は何を言うのでしたっけ?」とそっと聞いたら、聴衆にしっかり聞こえる大きな声で「そんなこと、知らないわよ!」と叫ばれました。このようなギョッとするような出来事は一緒にした協会活動において結構ありました。

「退職後は作業療法とは縁を切る！」と言い切られたご退職時の潔さと、新たに始められた日本画の出来栄のすごさに、「すごいですね！」と思わず口にしたら、「何が、どうすごいの？」と詰問されました。

鎌倉矩子先生の語りは、まことに率直でした。話の内容とそこにある問題・課題をわかりやすく、というよりストレートに提示することから、解決策にたどり着くまでの道筋は明快、且つ迅速という印象がありました。作業療法士の「定義」の作業、「作業療法学の構造」の作業、高次脳機能障害にかかわる多くの研究、作業療法学における質的研究の導入等、協会活動における業績も偉大でした。

私は、およそ半世紀前に医師の津山直一先生（東京大学）が、東京大学医学部衛生看護学科卒業生たちに、リハビリテーション専門職への道に進むよう声をかけてくださり、その結果、鎌倉矩子先生に出会えたこと、日本の作業療法黎明期に同時代の仲間として鎌倉矩子先生と同じ目標に向かって語り合い、論じ合う機会が得られた幸運を噛みしめております。鎌倉矩子先生、ありがとうございました。

鎌倉矩子 先生 略歴

1939年9月29日 生まれ
2023年6月16日 逝去（享年83歳）
免許番号：00096
会員番号：81
正 会 員：1968年～2010年
名誉会員：2010年～2023年

【職歴】

1962年～1966年 整肢療護園
1966年～1974年 東京大学医学部附属病院
1974年～1986年 東京都老人総合研究所
1986年～1993年 東京都立医療技術短期大学 教授
1993年～2001年 広島大学 教授
2001年～2023年 広島大学 名誉教授
2001年～2008年 国際医療福祉大学大学院 教授
2008年～2023年 国際医療福祉大学 名誉教授

【協会役員歴】

1970年～1971年 日本作業療法士協会 常務理事
1973年～1974年 日本作業療法士協会 理事
1974年～1996年 日本作業療法士協会 常務理事

【その他の主な協会役職歴】

1970年～1971年 日本作業療法士協会 渉外部部長
1973年～1975年 日本作業療法士協会 規約改正委員会委員長
1973年～1991年 日本作業療法士協会 規約委員会委員長

1977年～1978年 日本作業療法士協会 WFOT 第一代理
1977年～1981年 日本作業療法士協会 編集部部長
1983年～1985年 日本作業療法士協会 作業療法長期展望委員会委員長
1985年～1987年 日本作業療法士協会 作業療法学研究委員会委員長
1987年～1997年 日本作業療法士協会 学術部機関誌編集委員会委員長
1989年～1991年 日本作業療法士協会 作業療法白書委員会委員長
1991年～1997年 日本作業療法士協会 学術部部長

【表彰歴】

1995年 厚生大臣表彰（作業療法業務功労）
1996年 日本作業療法士協会 協会表彰
2010年 日本作業療法士協会 名誉会員表彰
2022年 瑞宝小綬章（保健衛生功労、教育研究功労）

【著書】

『手のかたち 手のうごき』（医歯薬出版、1989年）
『作業療法の世界—作業療法を知りたい・考えたい人のために』（三輪書店、2001年）
『高次脳機能障害の作業療法』（三輪書店、2010年）
『Postures and Movement Patterns of the Human Hand: A Framework for Understanding Hand Activity for Clinicians and Engineers』（Brown Walker Press, 2022）
そのほか、共編著書、翻訳書、論文多数

2006年6月30日～7月2日、京都で開催された第40回日本作業療法学会にて鎌倉矩子先生が、本会設立の40周年記念講演を口演されました。その際の講演内容は学術誌『作業療法』25巻5号(2006年10月発行)に論文として掲載されています。これまでのこの論文のデジタルデータがなかったことから、今回、広く会員の皆様のご供覧に付すべく、また、日本の作業療法の発展に多大なる功績を残された鎌倉先生を偲ぶべく再録いたします。

第40回日本作業療法学会 OT協会設立40周年記念講演

プロフェッショナルの成長

鎌倉 矩子*

要旨：近代作業療法が日本に生まれて40年、量の上では目覚ましい発展を遂げたが、質的にはまだ十分とは言えない。最大の気掛かりは、本来の使命であるはずの患者またはクライアント（顧客）の作業実現を助けるという仕事が、またそれに必要な支援技術の開発が十分になされていないことだ。事態を好転させる手がかりはプロフェッショナルの基本を取り戻すことの中にある。プロフェッショナルとは、現場にあって顧客の本当の願いを読み取り、現実的な提案ができる人のことである。いくつかの実践例、研究例が、作業療法においてもこれが可能であることを教える。現場の技術を発展させることの中にこそ、作業療法の真の発展はある。

作業療法 25:401～405, 2006

Key Words: (プロフェッション)、(専門職)、作業療法

40年が過ぎて

日本に近代作業療法士制度が整ったときから40年が過ぎた。最初の1966年にはたったの22名だった作業療法士の数は、ことし2006年には3万名を超えるまでになった。このような躍進は、40年以上も前に「この国にもぜひ作業療法の誕生と普及を」と願った者にはどんなに嬉しいことであるかわからない。私もそうした感慨をもつ1人である。

しかし一方で、気になることがある。それは、作業療法士自身が、この国で自分たちが果たしてきた仕事について、十分な充足感を持ちえているかという問題である。

このことを考えるとき、決まって私の脳裡に浮かぶひとつの文章がある。それはPierce⁵⁾による「学者の仕事」と

題する論文の一節である。

「……作業療法教育の焦点は従来、専門職の養成という学部レベルの教育に置かれてきたので、大学教師たちの努力は、教育的使命のほうにより強く向けられ、学者としての仕事は無視されてきた。作業療法の教員たちは、学者の行動様式に強く馴染んだ人々というよりは、際立った実践的業績を持つ人々によって構成されている。大学教員となる人の履歴の初期にこのような実践従事期間が挿入されるということは、大学院から直ちに学究生活に入ることが当たり前の他の分野に比べれば、学者としての可能性を伸ばす期間が短くなるということを意味する。作業療法分野での一般的パターンは、ようやく一人前になった研究者がいよいよ佳境に入ろうとするその時は、ちょうど定年にさしかかろうとする時だ、ということだ。……」

(上掲論文、p 127より訳出)

こう考えたPierceは、学者の行動や信条の様式をあらかじめ知ることに意義があると考え、その研究に取り組んだ。しかしいま私がここで論じようとするのは、そのことの是非

Necessity of occupational therapy development as a true profession

* 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所

Noriko Kamakura, OTR, DrMS: Graduate School of Health and Welfare Sciences, International University of Health and Welfare

ではない。“いよいよ佳境に入ろうとするその時は、ちょうど定年にさしかかろうとする時だ”という一文がかもし出す、ある種の痛切さのほうである。

同様に、個々の作業療法士も“私の作業療法”を見つけるのに長い時間（年数）がかかる。私は、自身の経験に照らしてそのように感じる。そして、多くの Pierce や私が作業療法士の中にはいるのではないかと思う。またその原因の一端が作業療法それ自体の性格の中に、あるいはそれを担ってきた人々の習性の中に宿っているのではないかと思う。

もしそうだとすれば、作業療法は一代ものということになり、知的遺産の継承は難しい分野だということになる。作業療法は米国での誕生から数えればもうすぐ 100 年の歴史を数えようというのに、そのわりには知的遺産が乏しい。その原因はこのあたりにあるのではないか、というのが私の憂慮するところである。

作業療法の成長を緩慢にしてきたもの

作業療法は元来、患者やクライアント（顧客）の“作業実現”をめざす筈のものであった。しかし当事者の仕事のベクトルがきちんとその方向を向いていたかと言えば、必ずしもそうとは言えない。

原因のひとつは、作業療法が医療と非医療の中間的性格を有している、ということの中にあったと思われる。これは、実際の社会制度とは折り合いのわるい性格である。そこで作業療法は、自らを医療だと名乗ることによって、生存の危機を乗り越えてきた。これは、米国における作業療法の歴史を紐解いてみるとわかることである²⁾。

しかし実際に医療の中で作業療法を実践してみた者は、やがて作業を、治療の手段と見るよりは、学習の目標や自己実現の場（機会）として見るほうが適切である場合が多いのを悟るようになる。だがこの“悟り”を公然と口にする作業療法士は少ない。なぜなら、“療法”と名のついている以上、治療にあまり貢献できないと宣言することはためられるからである。医療の一端が福祉に接近してきた今日の社会にあっても、このためらいは今なお残っていると言わなければならない。作業療法の理念についてのこの動揺は、作業療法技術の発展を足踏みさせずにはおかない。

もうひとつの原因は、作業実現を支援するための、持ち合わせの技術の乏しさである。残念ながら、この点での技術教育に関して、これまでの作業療法教育は失敗している。学生たちはみな、1 年生のときの作業実習は楽しかったという。けれども 2 年生 3 年生になったら病気や障害の話ばかりで、患者の話や患者の作業の話をしてくれる先生は減多にいなかったと、これも異口同音に言う。これは初期職業教育において、教師たちが、患者やクライアント（顧客）を支援する技術の本当のところを学生に伝えていな

いことの証拠である。だから学生たちは、卒業後に現場で、自分の経験を頼りに“私の作業支援技術”を作り上げていかなければならない。熱心で親切な作業療法士たちは自分が体得したものを後輩に伝えようとするであろうが、現場はそういう人達ばかりではない。「自分も教えてはもらわなかった。あんたも自分でやってごらん」と突き放す臨床実習指導者が、実は結構多いのである。

では現場の実践技術は文献の中に反映されているだろうか。実はこれも多くはない。実践家たちは論文執筆に慣れていない、新傾向の論文は査読ではねられやすい、などの問題がある。

こうして作業療法における作業実現の支援・指導技術は、どこから見ても世代を越えての伝承が難しい状況にある。このままでもいいとはとても思えない。

プロフェッショナルとは

作業療法士たちの多くは、自らをプロフェッショナルだと意識しているに違いない。ではプロフェッショナルとは何だろうか。

NHK 番組『プロフェッショナル』は、さまざまな登場者たちに「プロフェッショナルとは」を語らせている。「誇りと責任」（ある小児科医）、「一生この道を究めてみたいと思いつける人」（ある樹木医）、「揺るがないビジョンを持っている人」（あるゲーム開発部長）などどれも魅力ある答だが、しかしもうひとつ印象的なのは、それらを語った人々が一様に“現場”を大切にしている信条を語っていることだ。「腕は修羅場の数で決まる」、「樹木の声を聴く」、「現場に出ろ、答はそこにある」などの表現がそれを象徴的に表している。

著名なビジネス・コンサルタントである大前研一⁴⁾は、プロフェッショナルとスペシャリストは似て非なるものであるという。なぜなら、スペシャリストはある領域の専門知識、技術をそなえた人のことであるが、プロフェッショナルはそれ以上のものであるからと。

そしてプロフェッショナルの語源である profess はそもそも、「神に誓いをたて、これを職とする」ことを意味するのだと言う。では、誰のために？ 現代のビジネスにあっては、それは顧客のためである。顧客主義こそが 21 世紀のビジネスの規律でなければならないというのが氏の主張である。

プロフェッショナルは職業の種類によって定義されるものではない（同書）。揺るがないビジョンと永遠の探究心、そして自力本願と顧客主義（もしくは現場主義）をそなえた者こそが現代のプロフェッショナルであろう。

この中で、私がいま最も心を惹かれるのは顧客主義（もしくは現場主義）である。

現場で答を探す

「現場に出ろ、答はそこにある」と一流のプロたちは言う。これを作業療法にあてはめるとどうなるであろうか。

ひとつの流儀として、「どういう生活（作業）をしたいか、患者（顧客）に尋ねる」というのがある。これがよい場合もあるかもしれない。しかし一般論として言えば、私はこの流儀に疑問をもっている。

さきのNHK『プロフェッショナル』の中で、建築家の中野好文は、「どんな家が欲しいか、依頼者はわからない」と語っている。だから氏は、依頼者との雑談を重ね、その中から依頼者にとって心地よさそうな家を探っていくのだと言う。

私は、氏の発言に心の底から共感する。皆さんは、身体的苦痛があって医師を訪ね、そこでいきなり「注射をしますか」と問われて当惑したことはないだろうか。作業療法の顧客とて同じであろう。プロフェッショナルに求められるのは“提案力”である。現存の資源の範囲内で顧客の願いにかなう提案を生み出す力こそがプロには求められるのだと思う。

では、作業療法の場合、これはどのように展開されるであろうか。

谷川良博⁶⁾の『認知症の人への対応<ケース1>帰宅願望が強いキヨさん』はその好例である。

キヨさんは82歳の女性で帰宅願望が強い徘徊老人であった。職員たちはキヨさんの徘徊につきあうのがいいことだと考え、そうしていた。しかし谷川は、徘徊から帰ってくるキヨさんの表情が困り果てていて、とても暗いの気づいた。「故郷に帰りたい」と言い出すのがきまって食事前の手持ち無沙汰な時間帯であることにも気づいていた。キヨさんは、何もしないでいる時間が続くと、「何かしないとごはんが食べられない」と言って不安がる人もあった。

そこで谷川は、食事前のひとときをキヨさんと共に過ごすことから始めてみた。やがてキヨさんの昔話にヒントを得て（紙をたたんで作る）『ごみ入れ作り』を始めてみた。手伝おうとするとキヨさんは作業をやめてしまうので、並んで同じ作業をしながら一歩先を進むようにした。するとキヨさんは、谷川の手元を時々チラリと見ながら作業を進めるようになり、ごみ入れを完成させた。

この活動を始めると、キヨさんの顔は明るくなった。谷川の提案により、夕方にごみ入れを作って各テーブルに置き、翌朝には職員と共にこれを回収するという日課を始めると、こんどは他の入所者や職員から感謝の言葉をかけられるようになった。……やがてキヨさんは、少しずつ落ち着いて行った。これらを振り返って谷川は、キヨさんの帰宅願望は、「何もすることがない場所は自分の居場所ではない」ということのメッセージだったのだ、と理解した。

私はこのような事例報告に強く心を惹きつけられる。そし

て、このように優れた技術を持ち、手の内を語る作業療法士がそこここに現れてきたことに希望を覚える。世の中に2人と同じ患者／顧客はいないが、しかしこれを読んだ人は、自分自身の顧客に対する発想を強く刺激されるだろう。事例報告の長所は、具体的事実が放つ強いメッセージ性にある。

阿部浩美ら¹⁾の事例研究『なぜ「金」なのか—ある視覚障害を伴う発達障害児が目を向ける対象の探求—』もまた、現場での気づきがその先の展開をもたらした一例である。

対象児YNは当時4歳の重度重複障害児で、対象に目を向けることがなかった。運動発達は6ヵ月レベル、他は1～2ヵ月レベルと見なされ、音声・揺さぶり・くすぐりのみを好むと見られていた。きっかけはあるOTセッション中に起こった。YNが金紙を見たように思われた！ というのである。しかもそれは金色のものに限られているように思われた。なぜ「金」なのか？ 他にも視線を向けるものはあるのか？ これが探究の出発点となった。

最初の実験は、金色への反応が純粋に視覚的なものかを確認するために行われた。実際の遊びの中では、声をかけたり、金紙をガサガサ言わせたりが混じっていた可能性があるからである。金紙と白紙を各9回、ランダムな順序で30秒間ずつ提示し、YNの顔をビデオに撮影した。そのときのビデオクリップを9名の作業療法士に見てもらい、YNがそれを見たかを判断してもらった。結果は、金紙を見たかと判断された頻度が、白紙のそれよりも有意に高かった($\chi^2 = 30.462$, $p < 0.000$)。実験2は、「金色」がもつ要素のどれにYNが反応しているのかを確かめるために行われた。「光の強さ」、「キラキラ感」が関与していると推測される結果となったが、しかしこの実験中に思わぬ発見があった。それはYNが、人形の水玉スカートを見たように思われた！ というものである。次の実験で「YNは確かに水玉を見るか」の確認が行われ、答はYesとなった。金紙と水玉の共通性が何かを探ることが次の実験課題となった。さらなる探究過程を続ける中で阿部は、錯視図形『きらめき格子』の存在を知り、この図形とYNが注目する対象との間に類似性があることに気づく。そして多数の錯視図形を対象とする実験を経て阿部は、「YNは、キラキラする感じが視野いっぱい広がる遊び（玩具）ほどよく見る」という仮説にたどりついた。6つの遊び（玩具）を使って行われた最後の実験は、この仮説を支持した。YNはシャボン玉とバブルチューブをよく見たが、オルゴールとエルモ人形はあまり見なかったのである。こうして阿部は、金色のもの以外にYNが目を向ける対象をつきとめた。その年の夏、YNは花火を楽しんだが、これは家族と一緒に楽しむ初めての遊びとなったという。

この事例研究にはさまざまな長所があるが、ここでは、

現場の観察所見を丁寧に取り上げたことが兄の潜在能力の発見につながったという点を強調したい。こうした手法を重ねた先にはより豊かな技術理論の展開があると私は確信する。

現場の発想を支えるもの

個人的体験であるが、現場の所見から対象者の作業実現を支援する方法の手がかりを得る、ということは私自身も経験している。

それは、それまで家事をこなしていた 97 歳の母親が、ある朝突然に作業不能に陥ったことによって始まった（軽い脳梗塞を起こしていたと後でわかった）。2ヵ月後、軽い鬱状態を脱した後に問題となったのは、本人が「食後の茶碗洗いはするよ」と強く主張したことである。しかし何であれ素手で水洗いをするだけなので実用にはならなかった。

洗剤と手袋を使うように導きながら、米を研ぐ作業を頼みながら、ベランダで一緒に鉢の植え替え作業をしながら、私は母の行動をつぶさに観察した。その結果から私が得た結論は、母は「(告げられた)多数情報を処理できない」、「(見えている)多数選択肢の中から選べない」、「告げられた言葉からイメージを想起できないことがある」、「コレはわかるがソレはわからない」、しかし「手にした道具と材料は正しく順序良く扱う」ということである。

この推理を土台にして、私は茶碗洗いの支援作戦を考えた。流しに必要な物品をすべて整えたうえで母を呼び、まず手袋を手渡ししてはめるのを見届け、次に洗剤容器を手渡して彼女が洗剤液を桶に垂らすのを見届け、そのうえでスポンジを手渡して、「はい、お願いします」と言ってみた。作戦は成功し、母は次々と下洗いをを行い、すすぎ、籠入れをこなし、滞ることはなかった。試みにこの導入作戦を省くと、母はたちまちにして混乱に陥った。

この小さな成功は、私に深い安堵をもたらした。一時は思案に暮れていた母親との暮らしを、これからどう組み立てていけばよいかかわかったと思ったからである。

職業人としての私に立ち戻ってみると、私はこの経験からふたつのことを学んだと思う。ひとつは、月並みではあるが、究極の現場である生活の場がもたらす情報の豊かさである。しかしもうひとつのさらに重要な気づきは、現場が全てではない！ということであった。私は、母の脳機能を推理するにあたって、無意識のうちに、これまでの学習と経験で培った認知神経心理学的視点を使っていた。この基盤がなかったら、眼前の所見は私の意識を素通りして行ったと思われる。現場は発想の機会に満ちているが、しかし現場に身を置きさえすればよい、というわけではない。

作業療法は固有のパラダイムを持ち、場面と手順を整えたうえで個々の患者やクライアント（顧客）にはたらきかけ、

その人々の作業実現をはかろうとするものである。しかしその過程では、さまざまな他領域の知識技術を援用している。基礎医学、臨床医学、障害学、運動学、心理学、臨床心理学、認知神経心理学、作業技術等々は、作業療法士養成課程の中で必ず教えられている科目である。ある人々はこの状況を、作業療法の自立性を脅かすものと見る。

しかし、作業療法が多種類の学問を援用するわけは、「ひと」や「患者」を理解するのにそれが有用だという点にある。医学や心理学や運動学の知識をもつことはむしろ武器を増やすことであり、決して不名誉なことではない。

不名誉があるとすれば、それは他領域の価値観を尊重するあまり、作業療法のそれを捨ててしまうことの中にある。このため似非神経学者や似非心理学者や似非理学療法士が生まれることがあるが、しかしこの人たちはどの領域に対しても真の貢献をすることはない。

ふたたびプロフェッショナルについて

作業療法士たちはいままで、現場の技術を“具体的に”語ることが少なすぎたのではなかろうか。プロフェッショナルとは道なき道を洞察と判断をもって進む人であるが⁴⁾、しかし現場の技術を語らない者はプロフェッショナルとは言えない。またそれを吟味し、それを自力で進展させることに喜びを見出さない者も、プロフェッショナルと言うことはできない。それがいま、私が一番訴えたいことである。

文献

- 1) 阿部浩美、鎌倉矩子：なぜ「金」なのかある一視覚障害を伴う発達障害児が目を向ける対象の探求一。作業療法 23：425-437、2004。
- 2) 鎌倉矩子：作業療法の世界一作業療法を知りたい・考えたい人のために一。三輪書店、東京、2001。
- 3) NHK：プロフェッショナル 仕事の流儀。(オンライン)、入手先<<http://www.nhk.or.jp/professional/>>、(参照 2006-06-26)。
(※編注：2023 年 7 月 31 日現在、過去の放送分の内容を遡って確認できるのは 2019 年放送分まで)
- 4) 大前研一：ザ・プロフェッショナルー21 世紀をいかに生き抜くかー。ダイヤモンド社、東京、2005。
- 5) Pierce D：The work of scholars. In Zemke & Clark(ed), Occupational Science: The evolving discipline, FA Davis, Philadelphia, 1996、p.127。
- 6) 谷川良博：覗いてみたい?! 先輩 OT の頭の中；認知症の人への対応<ケース 1> 帰宅願望が強いキヨさん。作業療法ジャーナル 40 (1)：54-55、2006。

日本作業療法士協会の新しい事務局体制

事務局長就任のご挨拶

事務局長 東 祐二



2023 年度第 1 回定例理事会（2023 年 4 月 15 日開催）にて承認され、6 月 1 日付で会長より事務局常勤職員として任命され着任いたしました。会員のみなさまと作業療法士を利用する患者様・利用者様・障害のある方、そのご家族、そして作業療法を目指す方のことを強く意識しながら任務に精励したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2023 年 5 月 27 日に 2023 年度定時社員総会、第 1 回臨時理事会を経て、山本伸一新会長が選任され、新体制による協会運営がスタートしました。

併せて、本年度は協会組織再編の起点となる新組織での起点の年でもあります。

具体的には、第四次作業療法 5 ヶ年戦略（2023-2027）において、組織力強化 5 ヶ年戦略の上位目的 3 として新体制への移行とその安定した運用、および中位項目 2 として事務局を中心とした協会体制の整備」を掲げ、その下位項目として、「1）事務局組織の改編と新体制での安定した運営」「2）管理職の雇用・登用による事務局管理体制の整備」「3）雇用された職員と委嘱された部員による各部署の運営体制の定着」の 3 つの目標が挙げられています。

1) 事務局組織の改編と新体制での安定した運営

事務局組織再編については、事務局内に公益目的事業部門として学術部、教育部、制度対策部、地域社会振興部、国際部、生活環境支援推進室、MTDLP 室、制作広報室を、法人管理運営部門として総務部を置くこととされました。ここで活動する事務局員は、本会が雇用する常勤または非常勤の法人職員および本会が委嘱する本会会員から構成されることとされています。これにより、事務局の機能を部署横断的とし、迅速な機能を強化することが意図されています。

2) 管理職の雇用・登用による事務局管理体制の整備

管理職（事務局長・部長等）の雇用・登用については、部長等の兼務理事は最小限に抑えることを意図して、法人職員として新たに事務局長、制度対策部長、生活環境支援推進室長、MTDLP 室長・副室長、制作広報

室長が着任しました。これにより、いわゆる実行機能を担う事務局と理事機能との分業化につながる第一歩が踏み出されたことになります。

3) 雇用された職員と委嘱された部員による各部署の運営体制の定着

各部署の運営体制の定着については、新体制になって間がないため、まさにこれからであります。新しい体制が定着するまでには、運用上の不具合や一時的な混乱はつきものであるかと思います。これらの一つひとつの課題に真摯に向き合い、解決しつつ前に進めることが最も重要だと考えております。

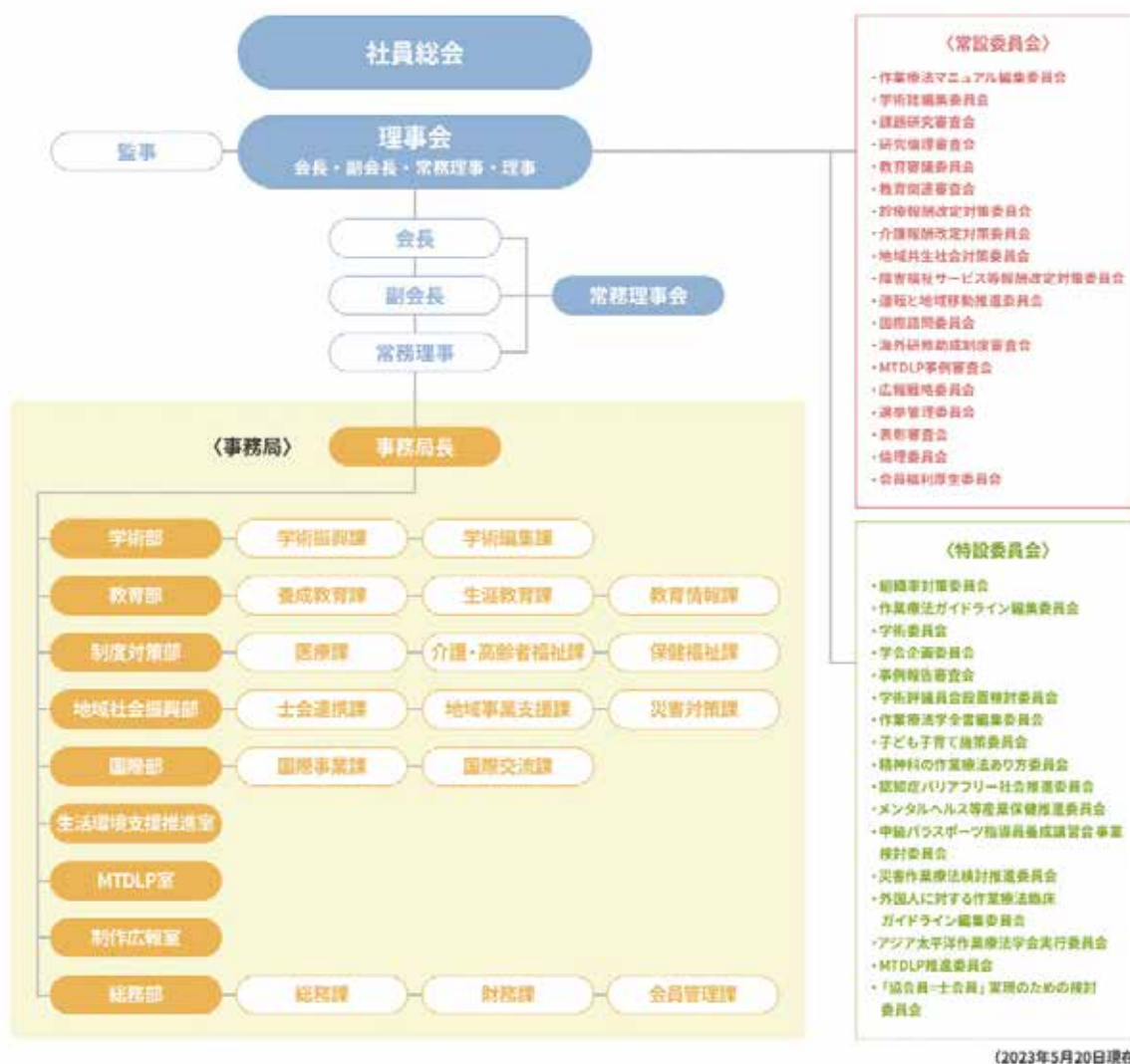
以上のことが組織再編における事務局体制強化に関する組織目標であります。このなかにあって、事務局長は理事会の指揮命令の下で事務局全体を統括し、本会の事業活動に資するデータの収集と分析、事業戦略の立案と評価、事業活動の企画調整を行うと定款施行規則に定められており、責任の重さを痛感しているところです。

具体的には、中期計画、毎年度の重点活動項目、事業計画・予算申請、事業報告・決算等の事業全体にかかわる重要案件は事務局長が取りまとめ、担当常務理事・担当副会長に理事会への審議上程を求めることになっております。息つく暇もない状況ではございますが、事務局員の皆様と一緒に取り組んでいくことが事務局機能の強化には最も重要であると考えております。会員の皆様、関係各位にはご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、私の経歴を簡単に述べさせていただきます。私は 1985 年に作業療法士資格を取得し、臨床での第一歩を踏み出してから、今年で 38 年目を迎えます。それまでの間、作業療法の臨床家、現場のマネージャー、県作業療法士会役員（会長）、本会役員（理事）、専門学校・大学の非常勤講師、行政事務職、研究職（工学）等、さまざまな経験をさせていただきました。これを本会事務局活動に活かせるように、精一杯励んでまいりたいと思います。

日本作業療法士協会 組織図

2023年度第4回定例理事会（2023年7月15日開催）にて、委員会も含めた新体制による本会の組織図が承認されましたので、お示しします（図参照）。従来の体制では、各部・室のなかに委員会が設置され、事業の検討・実行していましたが、かねてからお伝えしているとおり、新体制では委員会は検討機関として理事会直下の組織となりました。委員会による提案は理事会で審議され、承認された事業を実行機関である事務局が取り組むことになります。事務局の各部・室には課が設置され、課長が置かれます。



日本作業療法士協会 組織図

事務局の職員体制

2023年度第3回定例理事会(2023年6月17日開催)で事務局の職員体制が、第4回定例理事会で各部・室の部長・室長が承認されましたので、お示しします(表1)。これまでの体制では、業務執行理事が部長・室長に就いていましたが、新体制では原則的に部長・室長は職員を新たに雇用することとなりました(ただし、理事が兼務することも可)。

表1 事務局職員体制

部署	職位／主たる担当業務	勤務形態	氏名	職務
事務局長		常勤	東 祐二 (OTR)	事務局を統括する
●公益目的事業部門				
学術部	学術部長	非常勤	能登 真一 (理事、OTR)	(1)『作業療法ガイドライン』などの作業療法の臨床領域における専門基準に関すること (2)組織的学術研究や課題研究助成制度の運営等、作業療法の学術的発展に関すること
	学術振興課長	常勤	谷津 光宏	(3)学会の企画・運営に関すること (4)学術資料の作成と事例などの学術データ収集に関すること (5)学術誌『作業療法』[Asian Journal of Occupational Therapy]の編集と論文表彰に関すること (6)その他、学術に関すること
	学術編集課長			
教育部	教育部長	非常勤	竹中 佐江子 (理事、OTR)	(1)臨床実習指導者の養成、教育コンソーシアムの構築や作業療法士学校養成施設連絡会の開催等、養成教育に関することに取り組む
	養成教育課長	常勤	庄司 志保	(2)認定作業療法士、専門作業療法士の認定・研修、新しい生涯学習制度の構築、各種研修会の企画運営等、生涯教育に関することに取り組む
	生涯教育課長	常勤	高島 紀美子 (OTR)	(3)国内外の養成教育・生涯教育の現状、協会・都道府県作業療法士会・他団体主催の研修会の開催状況等、さまざまな教育関連情報を収集し、活用に取り組む
	教育情報課長	非常勤	竹中 佐江子 (兼務)	(4)その他、作業療法教育に関することに取り組む
制度対策部	制度対策部長	常勤	遠藤 千冬 (OTR)	(1)医療の作業療法に関するものに、とりわけ、診療報酬改定についての渉外活動、委員会の開催、実態調査、情報配信等を行う
	医療課長	非常勤	藤岡 晃 (OTR)	(2)介護・高齢者福祉の作業療法に関するものに、とりわけ、介護報酬改定についての渉外活動、委員会の開催、実態調査、情報配信等を行う
	介護・高齢者福祉課長	非常勤	大内 義隆 (OTR)	(3)障害福祉・保健・特別支援教育・司法等、さまざまな領域における作業療法に関するものに、とりわけ、
	保健福祉課長	非常勤	高森 聖人 (OTR)	(4)その他社会福祉に関するものに、とりわけ、
地域社会振興部	地域社会振興部長	非常勤	辰巳 一彦 (理事、OTR)	(1)自治体担当作業療法士の配置等を通じて、地域包括ケアシステムにおける作業療法を振興し、地域支援への参画拡大およびそれに関するものに、とりわけ、
	士会連携課長	常勤	※8月に和久が統括課長に着任予定	(2)日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会48団体連携協議会(よんぱち)の運営をはじめとして、都道府県作業療法士会との連携に関するものに、とりわけ、
	地域事業支援課長			(3)災害支援ボランティアの確保や災害シミュレーション訓練の実施、関連団体への協力等、大規模災害への支援に関するものに、とりわけ、
	災害対策課長			(4)運転支援やパラスポーツ、認知症対策その他地域社会における作業療法の振興に関するものに、とりわけ、
国際部	国際部長	非常勤	高橋 香代子 (理事、OTR)	(1)アジア作業療法協会交流会や2ヵ国間学術交流協定などの国際的な学術交流、海外研修助成制度等の研修、教育支援等に関するものに、とりわけ、
	国際事業課長	常勤	上 梓 (OTR)	(2)調査協力、広報活動、代表者会議への出席等、世界作業療法士連盟(WFOT)に関するものに、とりわけ、
	国際交流課長			(3)国外の関係団体・関係者との連絡調整に関するものに、とりわけ、
生活環境支援推進室	生活環境支援推進室長	常勤	東 祐二 (兼務)	(4)その他、国際交流に関するものに、とりわけ、
	生活環境支援推進副室長	非常勤	渡邊 慎一 (OTR)	(1)福祉用具相談支援システムの運用や生活行為工夫情報事業の拡充等、作業療法における福祉用具・住宅改修等の生活環境支援に係る情報収集・提供に関するものに、とりわけ、
MTDLP 室	MTDLP 室長	常勤	東 祐二 (兼務)	(2)福祉用具・住宅改修等の生活環境支援に関する研究・開発に関するものに、とりわけ、
	MTDLP 副室長	常勤	三上 直剛 (兼務)	(3)その他、作業療法における生活環境支援技術に関するものに、とりわけ、
制作広報室	制作広報室長	常勤	東 祐二 (兼務)	(1)活用事例の充実やMTDLP推進校との連携等、生活行為向上マネジメントの更新、開発、普及、啓発に関するものに、とりわけ、
				(2)本会の生活行為向上マネジメントの著作物に関するものに、とりわけ、
●法人運営管理部門				
総務部	総務部長	常勤	宮井 恵次	(1)紙媒体や映像、SNS等、さまざまなメディアを活用して、作業療法の普及啓発に関するものに、とりわけ、
	総務課長	常勤	杉田 潤一郎	(2)さまざまなメディアや他団体の学会への出席等を通じて、協会事業の周知に関するものに、とりわけ、
	財務課長	非常勤	岡本 佳江 (OTR)	(3)機関誌『日本作業療法士協会』の編集・発行をはじめとした、協会発行物の制作に関するものに、とりわけ、
	会員管理課長	常勤	霜田 紗江	(4)その他広報に関するものに、とりわけ、
総務部	総務部長	常勤	宮井 恵次	(1)業務執行理事の職務補佐や会長の秘書業務、定時社員総会や理事会の開催等、役員の職務支援に関するものに、とりわけ、
	総務課長	常勤	杉田 潤一郎	(2)法人の総務に関するものに、とりわけ、
	財務課長	非常勤	岡本 佳江 (OTR)	(3)法人の総務に関するものに、とりわけ、
	会員管理課長	常勤	霜田 紗江	(4)法人の総務に関するものに、とりわけ、

理事と担当職務一覧が一部追加・修正されました

本誌第136号（2023年7月15日発行）p.8に、「2023-2024年度 理事の構成と担当職務」を掲載しましたが、2023年度第4回定例理事会にて一部の理事の担当職務について実態に即して追加・修正することが承認されましたので、ここに再掲します（表2）。

表2 理事の構成と担当職務一覧（2023-2024年度）

職位	氏名	定款の定め	理事としての職務内容	その他の担当職務
会長	山本 伸一	法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する	法人の代表、業務の執行	
副会長1	大庭 潤平	法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表するとともに会長を補佐し、理事会において別に定めるところによる業務を分担執行する	法人の代表、法人の管理・運営（主）、事業戦略、作業療法の国際交流に関する業務の分担執行	WFOT 代表
副会長2	香山 明美		法人の代表、法人の管理・運営（従）、広報、作業療法の学術、地域社会における作業療法の振興に関する業務の分担執行	
副会長3	三澤 一登		法人の代表、作業療法の教育、作業療法の制度及び社会保障、生活環境支援技術、MTDLPに関する業務の分担執行	
常務理事	酒井 康年	会長及び副会長を補佐し、理事会において別に定めるところによる業務を分担執行する	法人の管理・運営、事業戦略に関する業務の分担執行	リハ3 団体障害福祉 WG 担当 バラスポーツ担当
常務理事	関本 充史		よんばち、「協会員＝士会員」実現、広報に関する業務の分担執行	
常務理事	清水 兼悦		作業療法の学術、組織率対策に関する業務の分担執行	
常務理事	早坂 友成		作業療法の教育に関する業務の分担執行	組織率対策担当
常務理事	高島 千敬		作業療法の制度及び社会保障に関する業務の分担執行	リハ9 団体報酬対策委員会（診療報酬）担当 リハ3 団体診療報酬 WG 担当
常務理事	谷川 真澄		地域社会における作業療法の振興に関する業務の分担執行	組織率対策担当 よんばち担当
常務理事	池田 望		作業療法の国際交流に関する業務の分担執行	APOTC 担当
常務理事	村井 千賀		生活環境支援技術、MTDLPに関する業務の分担執行 作業療法の制度および社会保障に関する業務の分担執行	精神関連担当・認知症関連担当・介護保険関連担当 リハ9 団体報酬対策委員会（介護報酬）担当
理事	池田 勝彦	理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する	業務執行の決定への参画、理事の職務の執行の監督、代表・執行理事の選・解任	教育部長補佐 組織率対策担当
理事	上田 裕久			制作広報室長補佐 「協会員＝士会員」担当
理事	小林 毅			地域社会振興部長補佐 （災害対策課担当） 白書担当、60周年記念事業
理事	佐藤 孝臣			地域社会振興部長補佐 （地域事業支援課担当）
理事	島崎 寛将			学術部長補佐 よんばち担当
理事	高橋 香代子			国際部長 APOTC 担当
理事	竹中 佐江子			教育部長 運転と地域移動支援担当 よんばち担当
理事	辰巳 一彦			地域社会振興部長
理事	谷口 敬道			教育部長補佐 白書担当
理事	土居 義典			制度対策部長補佐 リハ3 団体診療報酬 WG 担当
理事	能登 真一			学術部長
理事	二神 雅一			制度対策部長補佐 60周年記念事業担当



代議員選挙を 12 月に実施します

選挙管理委員会

9 月 1 日付でご自分の選挙区と選挙区毎の代議員定数が決まります 異動のあった会員は早めに手続きをしてください

2023 年 12 月をもって現在の代議員は任期満了となるため、代議員改選のための選挙を行います。

●代議員とは何か

代議員は正会員の代表として社員総会に出席します。議決権（代議員 1 人につき 1 個）をもち、定款に定められた事項についての議決に参画します。

代議員の任期は 4 年で、各都道府県を選挙区とした代議員選挙において選出されます。

●代議員改選のスケジュール

会員データの確定日	9 月 1 日	会員の所属都道府県を確定し、選挙区ごとの代議員定数を算出します
代議員選挙公示	10 月 15 日	代議員改選と立候補募集を公示。協会ホームページと機関誌第 139 号（2023 年 10 月 15 日発行予定）に掲載します
立候補受付	10 月 19 日～ 11 月 1 日	
選挙告示	11 月 28 日（予定）	立候補者受理の報告→全会員個人へ郵送します
投票用 ID パスワードの送付	12 月 1 日より送付	投票が実施される選挙区の会員にのみ、投票用 ID パスワードを郵送します*
インターネット投票	12 月 8 日～ 12 月 22 日	
新代議員の紹介		機関誌第 143 号（2024 年 2 月 15 日発行予定）に掲載予定

※インターネット投票が実施されるのは、定数を超える候補者が立った選挙区のみとなります。

●代議員選挙は都道府県が「選挙区」となります

代議員選挙の選挙区は都道府県です。正会員は協会に登録している「所属都道府県」が、選挙権および被選挙権をもつ選挙区となります。

●ご自分の所属都道府を確認する方法

ご自分の所属都道府県は次の方法で確認できます。

- 1) 協会ホームページの「会員ポータルサイト」から会員番号／パスワードを使ってログインします。
- 2) 左端上のタブ>「登録情報」>「会員情報」をクリックして開きます。
- 3) 「基本情報」に登録されている「**所属都道府県**」が代議員選挙の選挙区となります。
（「所属都道府県」は、原則として勤務先住所に基づいて登録されています。勤務先がない人の場合は自宅住所となります）

※「所属都道府県」についてご不明な点等は、協会事務局までお問い合わせください。

●9 月 1 日時点の登録状況で、代議員選挙の「選挙区」が決定します

2023 年 9 月 1 日時点の会員管理システム上に登録されているデータをもとに、①各会員の選挙権および被選挙権がある「選挙区」、②各「選挙区」（都道府県）の代議員定数、が決定します。

職場や自宅住所が変わった方で、変更手続きがまだお済みでない場合は、会員ポータルサイトからご自分で変更を行うか、協会ホームページから「変更届」を印刷し、協会事務局へ代行入力を依頼するかをお願いします。

また、9 月 1 日以降に異動される方は、選挙関連の重要書類が転送されるよう、ご自分で郵便局に転居届を出す等の手配をお願いします。郵便の転送がされない場合は、投票用の ID・パスワードが届かなくなりますのでご注意ください。



2023 年度 名誉会員表彰

今年 5 月 27 日に行われた 2023 年度定時社員総会にて、山根寛氏（会員番号 993）を名誉会員とし、その功績を称えて表彰することが承認されました。

「名誉会員に関する規程」によれば、名誉会員の選考対象となるのは、通算 40 年以上正会員として作業療法業務に携わり、本会役員を 10 年以上務めた原則 70 歳以上の会員です。

今回受彰された山根氏は約 24 年間（1991 年～2015 年）にわたって本会の副会長、常務理事、理事を務められました。また、2006 年、第 40 回日本作業療法学会会長を務められ、2009 年には第 16 回世界作業療法士連盟（WFOT）大会の大会組織委員長に就任。2014 年に日本で初めての WFOT 大会開催を実現させ、成功に導かれました。

職歴においては、浅香山病院（1982～1989 年）での臨床を皮切りに、京都大学医療技術短期大学部（1989～2004 年：この間に博士号取得）、京都大学（2004～

2007 年）、京都大学大学院（2007～2016 年）で教鞭を執られ、2016 年より京都大学名誉教授に就任。多くの優秀な臨床家と研究者を育てるとともに、『精神障害と作業療法』（三輪書店、1997 年。新版 2017 年）、『作業療法臨床の知－作業療法臨床の体感の言語化 臨床の積み重ねから生まれた作業療法哲学』（三輪書店、2020 年）等、多数の論文・著書を通して精神科作業療法の実践に基づく理論化に尽力し、わが国の作業療法の学術振興に大きく貢献されました。本会以外では、日本精神障害者リハビリテーション学会、京都精神福祉協会、日本園芸療法学会等の理事も務められたほか、「ひとと作業・生活」研究会、市民学習会「拾円塾」を主宰し、共同作業所、授産施設、グループホーム等の創設や運営の支援等も行い、対外的にも、また公私にわたって作業療法の普及・発展に著しく寄与されました。

表彰式典では、山根氏からビデオレターでのご挨拶をいただきましたが、今回改めて受彰の言葉をいただきました。

表彰を受けて

山根 寛

自分が名誉会員として表彰されるとは、信じられないことです。月日が経つのは早いもので、名誉会員として表彰されるということはそれだけ自分も年齢を重ねたのだと実感します。

振り返ってみれば、多くの時間を日本作業療法士協会とともに歩んできたと思います。最初は、学術部のマニュアル制作から声をかけていただき、精神科領域の活動を展開しました。いくつかの厚生労働科学研究を通して、回復過程に沿った作業療法の役割を示すことができ、会員に示すことができたことは幸いでした。副会長としては、杉原元会長、中村前会長とともに歩み、実行委員長として 2014 年の世界作業療法士連盟大会を横浜で開催できたことは

大きな財産となったと思います。

今回の表彰に感謝いたします。そして、我々が与えられた課題を解決してきたように、若い会員の皆様にはまた新たな課題があると思います。与えられた課題解決に向けて、常にチャレンジする気持ちを忘れないでほしいと思います。



山根 寛氏



2023 年度 特別表彰

今年度、特別表彰の対象に大庭潤平氏（会員番号 8129、神戸学院大学総合リハビリテーション学部）が決定しました。「表彰規程」によれば、特別表彰とは「日本作業療法士協会もしくはわが国の作業療法の発展に特筆すべき事績をもって著しく寄与した者の表彰」であり、都

道府県作業療法士会からの推薦を受け、表彰審査会にて厳正な審査を経て理事会で審議・決定されています。

大庭氏は義肢装具関連の発展と普及に取り組まれ、その学術的功績が高く評価されての受彰となりました。

受彰のことば

大庭 潤平

このたび、栄えある日本作業療法士協会の特別表彰にお選びいただき誠にありがとうございました。この名誉ある賞をいただけたことは私にとって身に余るたいへん光栄なことであり、受彰の知らせを受けた時はただただ驚きました。この誌面をお借りして、ご推薦いただきました兵庫県作業療法士会の皆様と関係するすべての皆様に深く感謝と厚くお礼を申し上げます。

受彰の理由は、「義肢装具関連の発展と普及、学術的功績」とされています。私は、作業療法士になってからさまざまな障害のある方々にかかわりながら、作業療法とリハビリテーションについて学ばせていただいています。特に上肢切断者に対する作業療法においては、筋電義手に関する研究と普及、能動義手と筋電義手の操作能力の評価方法や訓練方法に関する研究に力を注ぎました。また、義手使用者の実生活やその課題、その方々の想いを理解するために自宅訪問や職場訪問を積極的に行わせていただいたり、先天性上肢欠損のある子どもや保護者等とのキャンプや交流イベントを行ってきました。そして教員として、それらの活動を学生の教育やボランティアの機会として活用させていただいています。

このような取り組みが、日本作業療法士協会に認めいただけたことは、一緒に活動する仲間も喜んでくれていま

す。これからも障害の有無にかかわらず誰もが楽しく暮らして、自己実現が可能になるような環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

実は、受彰に際しまして最も嬉しかったことは、兵庫県作業療法士会より推薦の打診をいただいたことでした。私は福岡県出身で、九州の学校養成施設を卒業した後、兵庫県神戸市にある兵庫立総合リハビリテーションセンターに就職しました。職場の先輩方のみならず、兵庫県内の作業療法士の諸先輩方にご指導をいただきながらたいへんお世話になりました。そして、兵庫県作業療法士会のさまざまな活動の機会や臨床経験も重ねながら、仕事も遊びも全力で取り組み、多くの仲間ができました。そのおかげで成長することができて、今の私があると思っています。この賞は、先輩方や仲間である兵庫県士会の皆様とともに受彰したと思っています。

これからもこの賞に恥じないように、作業療法および義肢装具の発展、作業療法の社会的な認知度向上、作業療法士の育成に努力していきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



大庭 潤平氏



学術誌『作業療法』第 43 巻 1 号～ 6 号 (2024 年 2 月～ 12 月発行) 紙媒体の配付希望受付について

日本作業療法士協会事務局

2024 年発行の学術誌『作業療法』第 43 巻の紙媒体の配付希望申込みを受け付けています。

前巻同様、第 43 巻も電子媒体による発行とともに、希望される会員には紙媒体での送付を無料で行います。

紙媒体配付を希望する会員は、希望受付期間中に下記 URL より入り、必要事項を記入のうえ、Web 上にてお申込みください。

紙媒体希望受付期間： 2023 年 8 月 1 日 (火) ～ 10 月 31 日 (火)

URL : <https://forms.gle/dL6VCWYMGzkHDY127>

下記の QR コードからも申込みページへアクセスできます。



※申込みをされますと自動返信メールが配信されますので、そのメールは大切に保管しておいてください。

※現在、紙媒体での配付を受けている会員の皆様も、第 43 巻を希望する場合には、あらためてこの申込みの手続きが必要となります。自動継続とはなりませんのでご注意ください。

※永年会員は、「永年会員制度規程」第 8 条の通り、紙媒体の学術誌『作業療法』の無料配付を受けることができません。今回の紙媒体希望申込みをし、2024 年度 4 月以降永年会員となった方は第 43 巻 1 号 (2 月号) のみの配布となります。2 号 (4 月号) 以降の紙媒体を希望される場合には、下記出版社まで有料購読の連絡を行ってください。

<有料購読取扱出版社：協同医書出版社 TEL：03-3818-2361 FAX：03-3818-2368 >



生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ

教育関連審査会

2023 年度の専門作業療法士資格認定審査、認定作業療法士取得臨床実践能力試験、認定作業療法士資格再認定審査をそれぞれ次の要領にて実施します。該当する会員の方は、準備ならびに必要な手続きをお願いいたします。詳細は協会ホームページをご参照ください。

2023 年度 専門作業療法士資格認定審査

申請資格
各分野の取得要件 2 (手引参照) および以下の取得要件を満たしていること。または読み替え要件および以下の取得要件を満たしていること。 ①作業療法士免許を有すること。 ②当該年度の年会費を納めていること。 ③申請時および試験時ともに認定作業療法士であること。
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2023年度専門作業療法士資格認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】 各分野の手引きにある申請に必要な書類を用意する。 ①作業療法士免許証の写し、②当該年度の電子会員証 (日本作業療法士協会) の写し、③認定作業療法士認定証の写し (有効期限をご確認ください)、④専門作業療法士研修受講履歴 (会員ポータルサイトから印刷してください。なお、読み替え申請者は不要)、⑤所属士会の会員歴証明証、⑥分野別申請書類一式、⑦読み替え申請書、⑧審査料 (5,000 円) の振込済み証明書の写し、⑨申請者の返信先明記済の 94 円切手を貼付した返信用封筒 (長形 3 号) * 審査料の振込先 郵便振替口座： 00120-7-146118 生涯教育講座 通信欄に必ず会員番号を記載してください。 ↓ 3. 2023 年 9 月 1 日 (金) ～ 10 月 31 日 (火) (当日消印有効) までの期間に、上記申請に添付書類等を添えて、協会事務局へ郵送する (レターパックプラス 520 を推奨)。
専門作業療法士取得試験資格者の決定について
1. 教育関連審査会にて、11 月中に申請に必要な書類の確認をいたします。 ※申請書類の内容で確認が必要な場合は個別にご連絡をし、指定する期日までに書類の再提出をお願いすることがあります。 2. 専門作業療法士資格取得試験の資格を満たす該当者には、1 月中に受験票を発行します。
試験審査概要
1) 日 時：2024 年 2 月 10 日 (土) 12:00 ～ 14:00 (11:00 開場、11:50 オリエンテーション) 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局 (予定。変更になることがあります) 3) 審査料：5,000 円 4) 方 法：筆記試験 (四肢択一) 120 分 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具 (※運転免許証等、本人を確認できるものをご持参ください。確認する場合があります)

ご注意！ 専門作業療法士読み替えによる取得の申請に関して

専門作業療法士 読み替え要件を満たす会員の方は、必ず申請いただきますようお願いいたします。詳細は、協会ホームページの専門作業療法士取得の手引きをご確認ください。

参考：読み替え期間

- ① がん 2023 年度まで (今年度が最終年度です)
- ② 就労支援 2024 年度まで
- ③ 脳血管障害 2026 年度まで

【専門作業療法士更新の手続きについて（書類審査のみ）】
有効期限が切れる前までに、必ず更新申請を行ってください。
2023 年度申請締切日：2024 年 1 月末日（必着）
審査会開催：2023 年 11 月、2024 年 2 月

認定作業療法士取得「臨床実践能力試験」

受験要件
以下の取得要件を満たしていること。 ①認定作業療法士取得共通研修ならびに選択研修が修了していること。 ②申請時及び試験時ともに基礎研修修了有効期限内にあること。 ③当該年度の年会費を納めていること。
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2023 年度 認定作業療法士取得 臨床実践能力試験 申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】 ①電子会員証（日本作業療法士協会）の印刷（振込みの郵便局等金融機関の領収証の写しでも可） ②上記受験資格①②が確認できる部分を会員ポータルサイトから印刷（詳細は協会ホームページに掲載します） ③申請者の返信先明記済の 94 円切手を貼付した返信用封筒（長形 3 号） ↓ 3. <u>2023 年 11 月 1 日（水）～ 12 月 10 日（日）（当日消印有効）</u>までの期間に、上記申請書に添付書類等をそえて、協会事務局へ郵送する。 ↓ 4. 受験票の発送（取得要件を満たし、かつ先着順で受験資格を付与します） 5. 受験料の振込み * 受験料の振込先 郵便振替口座： 00120-7-146118 生涯教育講座 受験が許可された方に通知をお送りします。通知に記載された期日までに入金してください。遅れた場合には受験資格を失います。
試験概要
1) 日 時：2024 年 2 月 11 日（日） 12：00～14：00（11：00 開場） 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定。変更になることがあります） 3) 受験料：5,000 円 4) 定 員：30 名（先着順） 5) 方 法：筆記試験（四肢択一／四肢択二）120 分 ※試験当日に持参するものは、受験が許可された方に別途お知らせします。

ご注意！

「認定作業療法士資格再認定試験」ではありません（再認定試験については次ページをご覧ください）。

2023 年度 認定作業療法士資格再認定審査（試験）の概要

本会は、認定作業療法士の資格を喪失した者を対象に資格再認定審査を実施します。ただし、**本年度の実施をもって認定作業療法士資格再認定審査（試験）は廃止とします。**

試験の目的				
認定作業療法士を更新できなかった会員の認定作業療法士としての資格を再確認することを目的とする。				
申請要件				
①理学療法士及び作業療法士法（昭和 40 年法律第 137 号）第 3 条による作業療法士の免許を有すること。 ②日本作業療法士協会正会員かつ都道府県作業療法士会正会員であり、それぞれの会員歴が通算 5 年以上であること。 ③認定作業療法士の資格を喪失したもの ※今年度の資格再認定審査を受験できる者は、認定作業療法士を失効した会員である。ただし、 有効期限が 2021 年 12 月 31 日 までであった会員である（注意：更新の猶予期限〔2 年〕内にいる方は受験できません）。 ④厚生労働省指定臨床実習指導者講習会を受講したもの（注意：厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の受講を必須としていますので、臨床実習指導者研修〔中級・上級〕等の修了による臨床実習指導認定は含まれません）。				
申請の流れ				
1. 協会ホームページより「2023 年度認定作業療法士資格再認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。 また、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】 ①該当年度の電子会員証（日本作業療法士協会）の写し、②所属士会の会員歴証明書、③認定作業療法士認定証の写し、 ④審査料（20,000 円）の振込済み証明書の写し、⑤厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の修了証の写し ↓ 3. 2023 年 11 月 1 日（水）～ 12 月 10 日（日）（当日消印有効） までの期間に、上記申請に添付書類等をそえて、協会事務局へ郵送する。 ＊審査料の振込先 郵便振替口座： 00120-7-146118 生涯教育講座 通信欄に必ず会員番号を入力してください。				
審査方法				
1) 書類審査 申請された書類一式を審査し、受験資格を確認する。受験資格を満たすものに受験票を発行する。				
2) 試験（筆記試験、四肢択一）120 分				
出題方式	出題数	配点	出題範囲	参考資料（テキスト等）
問題 1 一般問題	30 問	60 点	教育法（10 問）	・臨床実習の手引き 2018 ・作業療法ガイドライン 2018 ・臨床実習指導者講習会資料等
			研究法（10 問）	・作業療法マニュアル「研究法」第 3 版（2019 年発行） ・事例報告書作成の手引き（生活行為向上マネジメント） ・作業療法ガイドライン 2018 等
			管理運営（10 問）	・作業療法ガイドライン 2018 ・作業療法白書 2015 等

出題方式	出題数	配点	出題範囲	参考資料（テキスト等）
問題 2 状況設定 問題	10 問	40 点	・各領域における作業療法実践能力を問う内容（5 問） ・一般問題等に関する内容（5 問）	・作業療法ガイドライン 2018 ・作業療法白書 2015 ・倫理綱領等
計	40 問	100 点		

3) 採点と合否判定

試験実施後、採点し、60%以上の得点を得た者を合格とする。結果は理事会承認後、合格者には認定作業療法士の認定証が再交付される。また、台帳へ登録され、その氏名等が公開される。

試験概要

- 1) 日 時：2024 年 2 月 10 日（土）12：00～14：00（11：00 受付開始、11：45 オリエンテーション）
- 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定。変更になることがあります）
- 3) 審査料：20,000 円（申請時に振込み）
- 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120 分
- 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具
（※運転免許証等、本人を確認できるものを持参ください。確認する場合があります）
- 6) 試験日当日の緊急連絡先：kensyu.dengon@gmail.com

●各種審査・試験に関するお問合せ

一般社団法人日本作業療法士協会 教育関連審査会（試験班）
〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル
TEL：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872
Email：ot-edushinsa@jaot.or.jp

学会の見どころと番外編！



第57回日本作業療法学会

ものごとの仕組みに注目する

—作業療法における問題解決の糸口として—

会 期：2023年11月10日(金)～12日(日)

※現地開催後、オンデマンド配信

会 場：沖縄コンベンションセンター

学会ホームページ：<http://ot57.umin.jp/>

学会長：長尾 徹（神戸大学生命・医学系保健学域大学院保健学研究科）

学会とは「楽会」でもあります（執筆者のかつての同僚の奥様の名言）。そういうわけで、学会 NOTE 第4回目の今回は、本誌第134号（2023年5月号）で長尾学会長が紹介しきれなかった見どころや学会の楽しみ方について紹介します。

大幅増加した一般演題

今回の第57回学会では、口述、ポスター併せて1,500を超える演題が採択されました。第56回学会では約1,000演題でしたので、今回は非常に多くの方に演題登録をしていただきました。感謝しております。聴講者の皆様にとっては、たくさんの発表に触れることができ、聴講したい演題を見つけることができるでしょう。

なお、予想以上の演題数のため（嬉しい悲鳴です）、演題発表をするに当たり工夫が必要となりました。ポスターについては、午前・午後で貼り替えというスタイルにしました。より多くの演題や演者に触れることができるメリットがあり、より活発なディスカッションやコミュニケーションが生まれることを期待しています。

学会前準備とスケジュール

先述したとおり、第57回学会ではポスターを午前・午後で貼り替えるため、「見逃した！」ということが起こってしまうかもしれません。見逃しを防ぐために、学会プログラム全体を事前にチェックしておきたいところです。

そんな時に役に立つのが、学会ホームページのプログラムと学会アプリです。今後、学会ホームページプログラムとアイコンから日程表と抄録集を閲覧できるようになる予定です。日程表では、3日間の学会スケジュールと演題の領域が分かりますので、まず全体の流れや興味関心のある領域の日程を把握しましょう。

次に抄録集から各セッションでの演題名および抄録を確認し、聴講・参加したい演題をピックアップします。この時点では、なるべく多くの演題を候補に挙げて良いと思いますし、興味のある領域はもちろんのこと、著名な作業療法士の発表も、内容や発表の仕方を参考とすることができると思います。

最後に、上記で聴講・参加候補となった演題について、スケジュールングをしていきます。ホームページだけでなく「学会アプリ」を公開予定ですので、是非ともご活用く

ださい。

現地参加ならではの楽しみ方

現地学会開催後には、オンデマンド配信（一部、ライブ配信）がされますが、やはり現地でしか得られない体験もあります。

まず何といっても、会場を巡り歩くだけで、さまざまな刺激が得られること。オンデマンド参加ですとどうしても興味のある領域の視聴に偏りがちですが、会場を歩いていると、専門分野以外の発表や会場内外での会話が耳に入ってきますし、機器展示場を訪れば最新の機器や魅力のあるものに遭遇します。書籍も展示されていますので、今話題の書籍を手にとることもできます。また、その場での何気ない会話やディスカッションなら、素朴な疑問でも聞きやすく、そこでつながりをつくることもできます。

演題を聴講した際には、是非とも質問をしてみてください。演題を聴きながら即座に質問が思いつかないこともあると思いますので、学会ホームページや学会アプリで事前に抄録を確認しておくといいでしょう。

「質問なんてしたことないから緊張する……」という慣れない方のために質問の仕方についてもお伝えします。まずは、所属と氏名、発表に対して感謝の言葉を述べます。短い時間ですので質問数は1つか2つに絞りましょう。複数質問する時は、「お聞きしたいことが2つあります」などと伝え、発表者も頭のなかで整理しやすくなるので親切です。質問後にはお礼を述べましょう。

ポスターについては、演者がポスター前に1時間待機しているので、口述発表に比して質問しやすい雰囲気・環境だと思います。また、事前にじっくりポスターを見ることもできますので、準備がなくともその場で質問を考える時間もあります（とは言え、ある程度の予習をしておいた方が的を射た質問ができるのは間違いありませんが）。ポスターでの質問の際にも自己紹介をしましょう。会場ではネームプレートをさげているため、それを見せながら口頭で、または、



学会会場となる沖縄コンベンションセンターの劇場棟（会議場 C）

名刺がある方は今後の連絡を考えて名刺交換をしておくのも良いです。

学会後には、オンデマンドで視聴ができます。現地の学会に参加できなかった方はもちろんのこと、現地で参加された方も見逃し配信を視聴することができます。現地での醍醐味を味わった後にも、是非ともオンデマンドでじっくり学びを深めてみてください。

初の沖縄開催、存分に楽しみましょう！

第57回学会では、会場にキッチンカーを導入し、会場にいながら沖縄のソウルフードを味わうことができます。また、機器展示ブースには、沖縄県作業療法士会ブースもありますので、現地でのさまざまな情報を知ることができると思います。

また、言わずもがな、沖縄と言えば観光！ 学会は学術活動がメインではありますが、その土地の文化や風土に触れることもとても大切！ 観光の移動手段としてはレンタカーやモノレールがありますし、タクシー貸し切りで主要箇所を回ることもできます。是非、セッションの合間や学会終了後に沖縄観光をしてみてください。

The Development of Occupational Therapy and Cultural Impact on Occupational Therapy Services in Indonesia

— 第 13 回国際企画プログラムのご案内 —

国際部は 2008 年より毎年、日本作業療法学会において、会員の国際性の向上を目的とし、海外より講師を招聘した講演会を主催しています。今年は、第 57 回日本作業療法学会（沖縄）にて、インドネシアの作業療法に関する講演をオンデマンド配信する予定です。

2024 年 11 月には札幌の地で第 8 回アジア太平洋作業療法学会（APOTC2024）の開催を控えています。前年である今年の日本作業療法学会では、アジア作業療法士協会交流会ならびに日本 - 台湾作業療法ジョイントシンポジウムが開催され、アジアの作業療法をテーマに多くの討議がなされることが見込まれます。

そこで、本国際企画プログラムでも、APOTC2024 に向けてアジアの国に講演を依頼し、アジア太平洋地域の作業療法の現状について会員が思いを馳せる機会になればと考えています。インドネシアは日本と歴史的にも政治経済的にも深いかかわりを持ち、保健医療面でも接点のある重要なパートナーです¹⁾。また、その地形的な条件により、日本と同様に災害問題が多い地域であることが知られています²⁾。

講師はインドネシア作業療法協会で WFOT 代表を務める Tri Budi Santoso 先生です。「The Development of Occupational Therapy and Cultural Impact on Occupational Therapy Services in Indonesia（インドネシアにおける作業療法の発展と作業療法の提供に対する文化的影響）」という題名で発表されます。今回の講演では 1994 年からインドネシアにおける作業療法職の発展から現在の状況、さまざまな環境における作業療法の提供、そしてインドネシアの作業療法士が直面する課題等について、先生が行われた研究の結果に基づきながらお話いただく予定です。座長は国際医療福祉大学の石橋英恵先生です。石橋先生は長く本会の WFOT 代理を務められ、アジア諸国と日本の作業療法の交流に尽力してこられました。

本講演は、インドネシアにおける作業療法の発展と課題について理解を深め、異なる文化的背景での作業療法の重要性を再認識することができる機会になります。ぜひ、ご参加・ご視聴ください。



講師：Dr. Tri Budi Santoso, Ph.D OT
インドネシア作業療法協会 WFOT 代表
Surakarta Health Polytechnic 作業療法
法学科上級講師

***講演には日英の同時通訳がつき、日本語または英語、好きなチャンネルを選択して視聴可能です。**

11 月 13 日（月）よりオンデマンド配信の予定です。お気軽にご視聴いただければ幸いです。

【引用文献】

- 1) 江上由里子：インドネシア共和国の保健医療の現状．国際保健医療．27 (2), 171-181, 2012
- 2) 日本のインドネシアに対する経済協力～半世紀のパートナーシップ～
https://www.id.emb-japan.go.jp/oda/jp/whatisoda_04g.htm



第4回日本 - 台湾作業療法ジョイントシンポジウム 開催案内

国際部

第4回日本 - 台湾作業療法ジョイントシンポジウム (The 4th Japan-Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium. 以下、シンポジウム) が、第57回日本作業療法学会 (沖縄) の会期2日目 (11月11日 [土] 午前) に開催されます。

本会と台湾作業療法士協会は、2017年から2年ごとにシンポジウムを開催してきました。COVID-19の影響により開催が延期されたこともありましたが、これまでに3回開催し、両協会の協力関係と学術交流は確実に深化してきました (表参照)。昨年12月にはこれまでの交流の一つの節目として、「学術交流及び協力に関する協定」が締結されました。両協会間の交流・協力関係が今後さらに幅広い分野で進むことが期待されます。第4回シンポジウムは協定の締結を記念するシンポジウムとして、両協会から多くの作業療法士が参加する見込みです。

今回のシンポジウムでは2つのテーマについて、両協会から経験豊富な講師が登壇します。発表と質疑を通して日本と台湾の作業療法の共通点や相違点、新しい発見があるはずです。また、使用言語は英語ですので、日本の学

会に参加しながら、国際学会の雰囲気も感じることが出来ます。2024年に札幌市で開催される第8回アジア太平洋作業療法学会 (APOTC2024) に向けて、まずは本シンポジウムに参加して台湾の作業療法士の皆さんと交流してみたいかがでしょうか? 皆様のご参加を心よりお待ちしております。

表 ジョイントシンポジウム これまでの開催実績

2017年	第1回 (開催地: 台湾 桃園市)
2019年	第2回 (開催地: 日本 福岡県)
	第3回 (開催地: 台湾 台北市)
2022年	 ●抄録等の詳細はこちら



第4回日本 - 台湾作業療法ジョイントシンポジウム (The 4th Japan-Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium) 開催案内

日時: 2023年11月11日 (土) 9:00 ~ 12:00 (予定)
場所: 沖縄コンベンションセンター
内容:

- テーマ1 「Training and Post-Graduate Education for OT」
台湾講師: Hui-Fen Mao (National Taiwan University)
日本講師: 竹中佐江子 (株式会社リエ R)
- テーマ2 「Community Inclusive Services for People with Mental Health Conditions」
台湾講師: Te-Chun Chen (Jin-Shan Community Rehabilitation Center)
日本講師: 早坂友成 (杏林大学保健学部リハビリテーション学科)

※詳細は学会ホームページよりご確認下さい。

APOTC2024 の日程表をご確認ください！

第8回アジア太平洋作業療法学会(APOTC2024)

互いに支えあう地域づくり
—持続可能で根拠に基づいた作業療法—

会 期：2024 年 11 月 6 日 (水) ～ 9 日 (土)

会 場：札幌コンベンションセンター

学会長：山本 伸一 (一般社団法人日本作業療法士協会会長)

Ling-Hui Chang (アジア太平洋作業療法地域グループ会長)



APOTC2024 の日程表 (概要) ができましたので、公開します (図参照)。各日の詳細なスケジュールは学会ホームページに掲載していますので、併せてご確認ください。

なお、APOTC2024 では会場内に託児室を設置いたします。お子様と一緒に学会参加をご検討中の方はぜひご活用ください。

学会前日・期間中の 各種イベントをご紹介します

講演や発表のほかにも、学会前日および期間中にさまざまなイベントも企画しています。以下にご紹介しますので、楽しみにお待ちください。

1. プレコンgressワークショップ

一般応募で採択された方々に実施いただきます。学会参加者が主体的に参加できる体験型の講座で、15 程度のワークショップが予定されています。

日 時：2024 年 11 月 5 日 (火) 10:00 ～ 17:00 予定

会 場：札幌コンベンションセンターとその周辺

参加費：申込方法・各ワークショップの料金等は決まり次第ご案内いたします

2. ウェルカムレセプション

世界中から集う作業療法士の皆さんとのネットワーキングはいかがですか？ 初日のプログラム後に軽食・ドリンクをお楽しみいただけます。

日 時：2024 年 11 月 6 日 (水) 18:00 ～ 19:30

会 場：札幌コンベンションセンター

参加費：無料。6 日 (水) から学会に参加されている方のみご参加いただけます (6 日のみのワンデイ参加の方も参加可)



WFOT2014 でのレセプションの様子

3. ガラ・ディナー (コンgressパーティー)

国内外の参加者と一緒に北海道のお料理をご堪能ください。

日 時：2024 年 11 月 8 日 (金) 18:00 ～

会 場：札幌市内の会場を予定しています。決まり次第ご案内いたします

参加費：チケット購入方法・料金等は決まり次第ご案内します

4. 施設見学ツアー

札幌市内の施設を中心に見学ツアーを検討しています。実施方法については対面訪問またはハイブリッドを検討しています。決まり次第、学会ホームページ等でご案内します。

日 時：2024 年 11 月 7 日 (木) と 8 日 (金)

APOTC2024 では
2023 年 11 月末まで
演題登録募集中です！
皆様からのご応募を
お待ちしております。



●演題登録ページは
こちら

		会期 1 日目	会期 2 日目	会期 3 日目	会期 4 日目			
		11月5日 (火)	11月6日 (水)	11月7日 (木)	11月8日 (金)	11月9日 (土)		
9:00	プレコンgres ワークショップ						9:00	
9:30		開会式	・シンポジウム ・口述／ポスター発表 ・コンgresターマセッション ・ワークショップ	・シンポジウム ・口述／ポスター発表 ・コンgresターマセッション ・ワークショップ	第58回日本作業療法学会 開会式	9:30		
10:00						10:00		
10:30		コーヒープレーク				基調講演	10:30	
11:00		基調講演	・佐藤剛記念講演	・シンポジウム ・口述／ポスター発表 ・コンgresターマセッション ・ワークショップ	11:00			
11:30					閉会式	11:30		
12:00						12:00		
12:30						12:30		
13:00		昼食				13:00		
13:30						13:30		
14:00		・レクチャー ・コンgresターマセッション ・Education ワークショップ ・口述／ポスター発表	・シンポジウム ・コンgresターマセッション ・学生フォーラム ・口述／ポスター発表 ・施設見学ツアー	・レクチャー ・コンgresターマセッション ・ワークショップ ・口述／ポスター発表 ・施設見学ツアー	第58回日本作業療法学会	14:00		
14:30						14:30		
15:00		コーヒープレーク				15:00		
15:30		・レクチャー ・コンgresターマセッション ・Education ワークショップ ・口述／ポスター発表	・レクチャー ・コンgresターマセッション ・学生フォーラム ・口述／ポスター発表 ・施設見学ツアー	・レクチャー ・コンgresターマセッション ・ワークショップ ・口述／ポスター発表 ・施設見学ツアー		15:30		
16:00						16:00		
16:30						16:30		
17:00						17:00		
18:00		ウェルカムレセプション		ガラ・ディナー (コンgresパーティー)				

図 APOTC2024 日程表 (概要)



●各日のプログラム内容はこちら

APOTC2024 に引き続いて、
第 58 回日本作業療法学会が開催されます。
会期：2024 年 11 月 9 日 (土) ~10 日 (日)
会場：札幌コンベンションセンター



事務局からのお知らせ

◎2023 年度会費をまだご納入いただけていない皆様へハガキをお送りしました

7 月末までに 2023 年度会費をご納入いただけなかった方へ協会事務局より「会費納入のお願い」ハガキをお送りしています。このまま年度末（2024 年 3 月末）までに年会費のお支払いがありませんと会員資格を喪失し、現在の会員番号は使用できなくなり、なおかつ協会在籍履歴、生涯教育受講履歴もすべて抹消されます。また協会に再入会を希望される際は複雑な手続きが必要になりますので、そうならないためにも、早めに会費のご納入をお願いいたします。

振込用紙を紛失された方や、金額が不明な方は協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

なお、会費納入状況や会員証については協会ホームページの会員ポータルサイトにログインをすることでいつでもご確認いただけます（会費納入状況の確認方法：協会ホームページ>会員ポータルサイト>登録情報>会員情報>会費納入状況）。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に郵送物等をお送りすると、既に退職済みとのことで返送されてくることがあります。また、発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、古い勤務施設の登録が残ったままになっていることがあります。協会にご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断しますので、ご自身の登録している勤務施設情報が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願いいたします。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし「基本情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方はパスワードを再発行することができます（協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードを忘れた方はこちら）。なお、パスワードを再発行するには研修受講カードが必要です。

※登録情報の変更は、変更届の郵送、FAX、メール添付によっても受け付けています（協会ホームページ>諸手続き>変更届）。

◎休会に関するご案内

現在は 2024 年度（2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）の休会を受付中です。休会制度の詳細および「Q&A」については協会ホームページをご覧ください（協会ホームページ>会員向け情報>諸手続き>休会制度）。なお、2024 年度の休会を申請される方は 2023 年度の年会費をご納入のうえ、用紙は事務局までご請求ください。その他ご不明な点は協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。



各部の動き

教育部

●臨床実習指導者の養成・研修

養成教育課では今年度も、都道府県作業療法士会が運営する厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の企画書・報告書を確認し、修了証発送等の支援を行います。本会主催・運営の臨床実習指導者講習会は年3回の予定です。各都道府県士会においても数多くの講習会が開催されておりますので、実務経験が4年以上（実務経験5年目）になった会員の皆様は是非とも受講してください。また、臨床実習指導者実践研修会ではより質の高い実習指導者の育成を目指しております。今年度は3回開催の予定です。開催日時等は協会ホームページにてご確認ください。

●作業療法士学校養成施設連絡会を開催

作業療法士学校養成施設連絡会を例年3回開催しています。

今年度も3回を予定しており、第1回目は6月20日（火）に開催され、組織改編や新生涯学修制度についての情報・意見交換がされました。第2回は9月26日（火）、第3回は2024年1月30日（火）を予定しています。

●作業療法教育関係調査

毎年、作業療法教育関係調査（学校養成施設）を行っています。調査の内容は専任教員数、教員の取得学位、在籍学生数、入学試験受験者数・入学者数等です。学校養成施設に調査依頼が届いているかと思しますので、ご協力をお願いいたします。なお、昨年度の調査結果は本誌第132号（2023年3月15日発行）に掲載していますので、回答の参考にご参照ください。

制度対策部

●医療機関と企業・諸機関との連携事例の調査開始

2023年度重点活動項目にある「医療機関から企業や就労支援機関等への情報提供および連携に関する調査と事例集積に着手」への対応として、学会や学術誌での報告を中心にリサーチを開始しています。医療機関に所属する会員の皆様からの、現場での実践についての情報提供もお待ちしています。取り組み事例を提供いただけるようでしたら、制度対策部（ot_seido@jaot.or.jp）までご一報ください。

●障害保健福祉領域 OT カンファレンス、今年度の開催予定

障害保健福祉領域 OT カンファレンスを今年度も年2回開催予定です。第1回目は9月17日（日）9:00～13:00に、北九州にて開催いたします。グループホーム、自立訓練、就労継続支

援A型等に携わる作業療法士の実践報告と参加者同士のグループディスカッションを行います。3年ぶりの対面開催とし、実践報告まではオンライン参加も可能です。協会ホームページにご案内を掲載していますので、関心のある方は是非お申込みください。

●日本司法作業療法学会第1回学術集会（学会）、開催決定

本会も立ち上げに協力した日本司法作業療法学会の第1回学術集会（学会）が12月17日（日）に開催されます。シンポジウムおよび、医療観察法、刑事収容施設法、更生保護法等各領域の実践報告が予定されています。こちらも関心のある方は是非ご予約ください。

司法関連の情報は、協会ホームページ>会員向け情報>☆ PICK UP >司法領域の作業療法 をご覧ください。

地域社会振興部

●地域包括ケア推進班の動き

新たに示された地域共生社会5ヵ年戦略のスローガン「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」を目指し、昨年度まで特設委員会だった地域包括ケアシステム推進委員会は地域事業支援課の地域包括ケア推進班として活動を継続しています。第四次作業療法5ヵ年戦略関連活動として、①短期集中型サービス以外の医療から地域（在宅）への取り組み促進事業、②「短期集中型サービス」の参画促進事業、③作業療法士参画のための市町村担当者設置事業、④地域事業参画推進のための士会マネジメント事業、⑤協会・士会連携・士会間連携（ブロック機能）事業、⑥「重層的支援体制整備事業」

の実態を把握と参画推進事業、⑦「保健事業と介護予防の一体的実施」参画事業、⑧地域づくりに資する作業療法士参画モデル事業を実施します。また、2023年度重点活動項目としては、作業療法士参画のための市町村担当者設置事業、「保健事業と介護予防の一体的実施」参画事業が挙げられています。

これらの事業を進めるに当たり、これまで実施していた士会選任者との「人材育成研修会」を「地域事業支援会議」と変更して第1回目の会議を6月23日（金）に開催しました。各事業の方針や進捗状況を共有し、さらにブロック機能の有効活用や作業療法士ニーズ拡大等に資する活動のネットワーク構築の場となるような会議となりました。



委員会の動き

委員会は理事会直轄の検討機関として、理事会の諮問に対する答申を行います。そのため、定例理事会にて活動報告を行うこととなりました。各委員会の動きは、協会事業の動きの基点の一つとなるもので重要です。そこで、本誌でも各委員会の動きを会員の皆様にお知らせします。今号では 2023 年度第 4 回定例理事会（2023 年 7 月 15 日開催）での活動報告を掲載します（掲載は順不同）。なお、太字の文言は任務を示し、各任務に対して行ったことを記しています。

地域共生社会対策委員会

●地域共生社会に求められる作業療法士の役割

- ・作業療法士が地域の事業に参画していくための新組織体制および規程について確認しました。

●地域支援事業等、地域事業への作業療法士参画に向けた地域共生社会 5 ヶ年戦略の内容と進捗状況

- ・諸事業について資料を基に確認し、質疑を実施し、内容と方向性を共有しました。

●地域事業参画の実態

- ・作業療法士参画実態調査等について資料を基に確認し、質疑を実施し、内容と方向性を共有しました。

●その他地域共生社会への作業療法士の参画に関すること

- ・地域人材育成システムの管理運営について、本会で統一したカリキュラム作成の重要性と必要性について確認しました。

教育関連審査会

●会員個人の認定資格について審査

- ・専門作業療法士、認定作業療法士の 2023 年度第 1 回審査を準備しています。
- ・臨床実習指導者実践研修制度認定申請 26 件を審査し、すべてを「可」としました。
- ・運転と地域移動支援実践者審査委員の委嘱に向けて準備中です。

●施設の認定資格について審査

- ・臨床実習指導施設認定審査の 2023 年度第 1 回審査を行い、申請 11 件（新規 2 件、更新 9 件）を審査し、すべてを「可」としました。

●作業療法士学校養成施設の認定について審査

- ・2023 年度 WFOT 認定審査、MTDLP 推進協力強化校・推進協力校審査を準備しています。

●資格認定審査（試験）を実施

- ・作問依頼状況の確認、本誌 p.16~19 に 2023 年度試験についての案内を掲載しました。

MTDLP 事例審査会

●会員の MTDLP 事例登録審査に関すること

- ・MTDLP 事例報告登録制度とする規約、細則の事項を新たに定める必要性について検討しました。

●効果的・効率的な事例登録システムの検討に関すること

- ・次回の委員会で、MTDLP 事例報告登録制度とする規約・細則の案を事務局より提示し、審議を図る予定です。

●その他 MTDLP 事例審査に関すること

- ・審査員の審査状況を踏まえ、7 月に継続希望または任期終了の案内をかけ、MTDLP 室の室員として委嘱を図ります。

組織率対策委員会

●組織力強化 5 ヶ年戦略 上位目的 2 の事業計画について理事会に助言・提案

- ・今年 5 月に行ったアンケート調査 3 種の結果概要について確認しました。
- ・7 月の理事会に向けて提言を作成しました。
- ・アンケート調査の詳細な分析については、9 月開催予定のよんぱち、第 5 回定例理事会（2023 年 10 月 21 日開催予定）で報告することとしました。

●組織力強化 5 ヶ年戦略 上位目的 2 の事業の遂行について理事会に助言・提案

- ・アンケート調査の結果概要を考察し、早期に検討すべき事項を挙げ、理事会に提言しました。

●その他、本会の組織率低下に対する検討を行い、理事会に提言

- ・調査の回答を詳細に吟味し、回答者属性ごとの回答の違いを分析するクロス集計を行うため、外部業者への委託することを理事会に提言しました。

「協会員＝士会員」実現のための検討委員会

●「協会員＝士会員」実現のために都道府県作業療法士会間の意見交換・情報交換を支援

- ・2023 年度定時社員総会（5 月 27 日開催）で行われた質疑応答の内容を確認し、9 月のよんぱちにて回答を示すこととしました。
- ・法的検討結果報告書を抜粋・整理して、改めて全士会に配信することを検討しました。

●「協会員＝士会員」実現のための方策と工程表の修正案を策定し、理事会に提案

- ・次回会議で、焦点となっている会費の一括徴収の時期・方法等について改めて検討します。

●その他「協会員＝士会員」実現のために必要なこと

- ・新体制における委員会のあり方、人事について確認しました。
- ・システム稼働に先立って、「協会員＝士会員」に近い実態を構築するための諸作業を確認しました。

アジア太平洋作業療法学会実行委員会

●第 8 回アジア太平洋作業療法学会 (APOTC2024) の企画・運営に関すること

- ・各小委員会の準備進捗状況を報告し、課題整理を行いました。

●関係団体との連携に関すること

- ・アジア太平洋作業療法地域グループ (APOTRG) との第 1 回会議の結果について、国際渉外担当より報告・全体共有しました。

●関連委員会との連携に関すること

- ・第 58 回日本作業療法学会 (札幌) と都度情報共有を行い、本委員会が先行して演題登録の広報、参加登録システムの構築、機器展示企業の確保に向けて活動を展開することとしました。
- ・随時学会の収支予算案を更新し、コンベンションリンケージおよび財務課と共有を図ることとしました。

●その他、学会の開催にかかわること

- ・スポンサー企業への挨拶および趣意書説明（第 60 回日本リハビリテーション医学会等）を行うことを確認しました。

倫理委員会

●会員の倫理向上

- ・事例集の一部内容について会員からの意見を受けて、時代に則した内容とすべく、全体の見直しを進めることとしました。

●倫理対応体制の整備に向けた支援

- ・各都道府県作業療法士会の倫理対応体制整備に対して、本会ができる支援について検討しています。よんぱちに提案する士会向け研修企画案を作成しました。

●倫理相談への対応

- ・2023 年 4 月～6 月の倫理に関する相談は 2 件でした。

●その他

- ・作業療法士の職業倫理指針の見直しを行い、改定案が三役に提案予定です。

学術誌編集委員会

●学術誌『作業療法』（以下、『作業療法』）および英文学術誌『Asian Journal of Occupational Therapy』（以下、『AsJOT』）を編集・発行すること

- ・2023 年 4 月～5 月実施された学術誌に関するアンケート結果が報告され、配付形態を継続することとなりました。
- ・エディターマニュアルの重要事項が確認されました。
- ・EM 導入に伴い廃止された「第三査読」の、例外的な依頼事例について報告されました。
- ・現在の編集進行状況が報告されました。
※いずれも『作業療法』に関する報告

●投稿規定・執筆要領を随時検討し、適宜修正して理事会に報告するとともに、大幅な改定が必要な場合は改定案を作成して理事会に提案すること

- ・対象者の同意と、（倫理審査を受けていない場合の）病院長（所属長）の了承については、基本的に文書での同意・了承を必要とすることとなりました。
- ・執筆要領の改定案を作成し、次回の会議で審議します。



2022 年度 教育関連認定審査結果

2022 年度 専門作業療法士認定審査結果

2022 年度に専門作業療法士として認定した会員を公示する（太字は新規取得者）。

〔特別支援教育〕 4 名	武田 朋恵（北海道） 石附 智奈美（広島）	伊藤 信寿（静岡）	中島 るみ（大阪）
〔高次脳機能障害〕 2 名	森下 史子（神奈川）	中島 ともみ（愛知）	
〔精神科急性期〕 1 名	早坂 友成（東京）		
〔摂食嚥下〕 2 名	青木 佑介（三重）	太田 有美（岡山）	
〔就労支援〕 1 名	富永 雅子（広島）		
〔がん〕 8 名	藤井 洋有（群馬） 田尻 寿子（静岡） 池知 良昭（香川）	阿瀬 寛幸（東京） 島崎 寛将（大阪） 稲田 雅也（神奈川）	櫻井 卓郎（東京） 熊野 宏治（大阪）
〔脳血管障害〕 9 名	三瓶 政行（埼玉） 石垣 賢和（東京） 吉田 太樹（愛知）	池田 光代（東京） 渡部 喬之（神奈川） 井上 順一（福岡）	阿瀬 寛幸（東京） 酒井 涼（福井） 吉浦 和宏（熊本）

以上 27 名（新規 11 名 更新 16 名）

2022 年度 認定作業療法士認定審査結果

2022 年度に認定作業療法士として認定した会員を公示する（太字は新規取得者）。なお、2022 年度申請者のうち、2023 年度になって審査を受けた者は含まれない。

〔北海道〕	小岩 伸之 土橋 大基 横山 航太 森田 和幸 麓 文太 池田 友樹	片桐 一敏 長南 行浩 有働 克也 杉山 瞬 村口 詞紀 小島 希望 成田 秀美	山崎 礼二 湯浅 充 瀬下 義正 岡田 宏基 佐藤 航平 木下 和海 岩淵 久美子	金谷 匡紘 横山 和樹 鴻上 雄一 知本 幸士 武井 早紀	富居 泰臣 大和 千裕 浅野 祐平 片山 理樹 朝倉 真未
〔青 森〕	加福 隆樹 渡部 清寛			金谷 圭子	千葉 さおり
〔岩 手〕	鈴木 康也	渡部 祐介	佐藤 伸和	小原 幸也	
〔宮 城〕	高木 大輔	籾脇 健司	橋本 円	細川 大瑛	斎藤 郁矢
〔秋 田〕	進藤 潤也	田村 大	佐藤 直美	菊地 翼	
〔山 形〕	渋間 勇人				
〔福 島〕	根田 英之 内柴 佑基	滝沢 悠 佐藤 雄策	鎌田 洋志	新妻 祐介	佐藤 佑香
〔茨 城〕	渡邊 久仁子 足立 健太	夏加 孝明 廣瀬 友紀	宇都木 淳弘	若菜 幸一	片根 大輔
〔栃 木〕	佐々木 由佳	玉野 彩	野崎 智仁	清永 健治	
〔群 馬〕	佐藤 由子 山下 遊平	石森 卓矢	近藤 健	吉岡 哲郎	松井 明

〔埼 玉〕 〔千 葉〕 〔東 京〕 〔神奈川〕 〔新 潟〕 〔富 山〕 〔石 川〕 〔福 井〕 〔長 野〕 〔静 岡〕 〔愛 知〕 〔三 重〕 〔滋 賀〕 〔京 都〕 〔大 阪〕 〔兵 庫〕 〔奈 良〕 〔鳥 取〕 〔島 根〕 〔岡 山〕 〔広 島〕 〔山 口〕 〔徳 島〕 〔香 川〕 〔愛 媛〕 〔高 知〕 〔福 岡〕 〔佐 賀〕 〔長 崎〕 〔熊 本〕 〔大 分〕 〔宮 崎〕 〔鹿児島〕 〔沖 縄〕	水谷 とよ江 保田 由美子 植田 修二郎 澤田 辰徳 小池 真由美 谷川 絵里子 藤本 一博 青木 啓一郎 新山 祐貴 夏川 由貴 護摩堂 秀之助 長谷川 幸恵 櫻井 美穂 小林 勇矢 新宮 尚人 生田 純一 向 文緒 奥村 昌弘 小野山 絢香 池谷 政直 鈴木 由利 浅生 千晶 鈴木 耕平 白井 はる奈 佐上 雅宣 塚越 千尋 橋本 博史 瓜野 孝博 藤原 瑞穂 大田 理恵 佐東 健 早川 智美 田中 卓 森脇 繁登 谷口 恵美 下西 宣雄 久保田 真生 松村 幸治 久保 潤一郎 丹生谷 哲哉 井津 直哉 長谷 麻由 沢田 大明 木村 愛 中島 薫平 高木 雄作 片田 美咲 久保田 智博 古澤 麻衣 日隈 武治 岩切 良子 三宅 裕香 橋口 信洋 玉城 希	三瓶 政行 黒田 純也 水野 健 上田 敏宏 中本 久之 鈴木 雄介 中島 恵美 高橋 里奈 合歓垣 洸一 田中 佐千恵 泉 良太 四條 敦史 鈴木 めぐみ 川村 享平 岩丸 陽彦 松永 誠 強力 充昭 磯谷 茜音 安田 耕一郎 三木 恵美 柳川 明義 松田 大輔 嘉納 綾 大隈 真理子 坂口 雄哉 浦部 倫子 藤江 純平 三宅 一正 杉田 雄一郎 三宅 輝美 川原 裕治 櫛部 拓也 桂 雅俊 長城 晃一 高島 広樹 納富 亮典 松田 貴大 油井 栄樹 松井 隆太 高瀬 良太 久木崎 航 佐多 裕次郎 徳里 尚美	金丸 皓慈 柴田 美雅 宮本 礼子 菊池 大典 東田 翔平 岩上 さやか 前田 優 横山 太一 朝里 浩靖 西村 輝 伊海 友雪 青柳 翔太 廣渡 洋史 杉山 洋貴 杉山 冬樹 佐野 佑樹 松井 善也 隅野 裕之 今井 美早 池田 勝彦 大畠 久典 中村 太一 西尾 優也 瀬戸 裕次郎 山崎 晃 柳本 麻里 和田 悠 末澤 拓弥 吉村 大輔 福田 寛徳 蘭 文雄 太島 孝也 大草 直樹 杉村 彰悟 吉田 光秀 戸高 綾 安藤 千恵 座覇 政成	中田 孝 莊司 さやか 杉澤 樹 天内 将広 渡部 喬之 芹澤 健輔 町田 智紀 吉田 裕紀 佐久間 大輔 窪 優太 岡本 美絵 濱口 真 中井 秀昭 本多 伸行 中西 一 岡田 恵美 大瀧 誠 田山 大介 北別府 慎介 山田 寛之 片岡 聡子 須崎 優介 板井 幸太 牧野 優徳 前田 美穂 帆足 友希 鈴木 順子	並木 裕子 上原 亮介 加藤 大策 松本 武士 野村 真弓 遠藤 毅 中嶋 祥一 竹内 佳子 小川 倫永子 中村 洋一 上田 奈央 田畑 阿美 岸村 厚志 沢田 潤 藤原 恵美香 大庭 潤平 田内 悠太 岩崎 智子 奥田 絵梨花 長谷 夕子 甲斐 慎介 小柳 康裕 丸田 道雄 新川 正二
--	---	--	--	---	--

以上 258 名（新規 142 名 更新 116 名）

2022 年度 臨床実習指導者実践研修修了認定結果

2022 年度に臨床実習指導者実践研修を修了した会員を公示する。

〔北海道〕	小岩 伸之 林 知代	丹野 拓史 金野 円佳	高橋 ゆき 大坂 隆介	若月 雅人	荒井 英俊
〔青 森〕	太田 康介				
〔宮 城〕	橋本 円	石井 証希			
〔秋 田〕	菊地 翼				
〔福 島〕	荒川 仁一				
〔茨 城〕	小山 貴士				
〔栃 木〕	金子 祐大	沼田 敦			
〔群 馬〕	高井 沙織				
〔千 葉〕	田染 佐夏				
〔東 京〕	佐藤 純 小澤 弘幸	水野 健 河原 龍平	黒川 奈美子 野口 智裕	杉澤 樹 山野井 悠	稲川 浩充 榎本 真未
〔神奈川〕	古山 佳子	一木 愛子	芹澤 健輔	高杉 雄太	新山 祐貴
〔新 潟〕	平澤 利博				
〔富 山〕	吉田 祥子				
〔石 川〕	北村 祐樹				
〔静 岡〕	刑部 恵				
〔愛 知〕	二橋 喜太郎	川合 康夫	福永 康祐	岡田 健佑	山本 侑希
〔三 重〕	渡辺 裕子				
〔京 都〕	小野 陽子	田中 祐汰			
〔大 阪〕	宮本 年也	中野 大輔			
〔兵 庫〕	末吉 謙斗	檜部 満建			
〔奈 良〕	村上 賢治				
〔島 根〕	篠崎 亜由美	大垣 彩香			
〔岡 山〕	藤原 裕登				
〔広 島〕	藤田 香菜美				
〔山 口〕	波多野 裕子	徳若 雅之	安田 貴士	笠原 誠介	
〔香 川〕	小川 志乃				
〔高 知〕	片岡 聡子				
〔福 岡〕	梅崎 園美	須崎 優介	栗原 将太	田中 允康	
〔佐 賀〕	田代 裕太				
〔長 崎〕	藤原 謙吾	下濱 太陽			
〔熊 本〕	平田 圭子	浦田 希	岩永 知寛		
〔大 分〕	毛利 浩幸				
〔宮 崎〕	川俣 陽圭	江口 翔弥			
〔鹿児島〕	春花 利江	長崎 佳代子	井上 貴博		
〔沖 縄〕	古賀 雅都	西村 昭宣			

以上 80 名 (2 名非公開)

2022 年度 臨床実習指導施設認定審査結果

2022 年度に臨床実習指導施設として認定した施設を公示する（太字は新規取得施設）。なお、2022 年度申請施設のうち、2023 年度になって審査を受けた施設は含まれない。

また、施設名は申請書に記載された施設名で掲載している。

〔北海道〕	花川病院 八雲総合病院 市立札幌病院 旭川赤十字病院 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院 北海道社会事業協会 余市病院
〔青 森〕	公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 メディカルコート八戸西病院
〔秋 田〕	秋田労災病院 社会医療法人明和会 中通リハビリテーション病院
〔山 形〕	社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院
〔福 島〕	医療法人為進会 寿泉堂 松南病院
〔茨 城〕	医療法人博仁会 志村大宮病院・茨城北西総合リハビリテーションセンター
〔群 馬〕	社会医療法人輝城会 沼田脳神経外科循環器科病院
〔埼 玉〕	埼玉医科大学総合医療センター
〔千 葉〕	医療法人静和会 浅井病院
〔東 京〕	特定医療法人社団研精会 稲城台病院 JCHO 東京新宿メディカルセンター 介護老人保健施設 花水木 医療法人社団光生会 平川病院 医療法人社団青山会 青木病院 医善会 いずみ記念病院 社会福祉法人日本心身障害児協会 島田療育センター はちおうじ
〔神奈川〕	小田原市立病院 医療法人社団明芳会 イムス横浜狩場脳神経外科病院 医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院 医療法人五星会 新横浜リハビリテーション病院 医療法人社団健育会 湘南慶育病院
〔石 川〕	石川県立こころの病院
〔山 梨〕	社会医療法人加納岩 山梨リハビリテーション病院
〔長 野〕	長野県厚生農業協同組合連合会 長野松代総合病院 老人保健施設はびろの里
〔岐 阜〕	岐阜大学医学部附属病院
〔愛 知〕	愛知県医療療育総合センター中央病院 医療法人瑞心会 渡辺病院 医療法人光生会 赤岩病院
〔三 重〕	信貴山病院分院 上野病院
〔京 都〕	公益財団法人 丹後中央病院
〔大 阪〕	関西医科大学附属病院

〔兵 庫〕	兵庫県立ひょうごこころの医療センター 社会医療法人三栄会 ツカザキ病院 新須磨リハビリテーション病院
〔岡 山〕	地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター 医療法人創和会 しげい病院
〔広 島〕	総合病院 庄原赤十字病院 三次地区医療センター 医療法人社団大谷会 島の病院おおたに
〔山 口〕	独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター
〔香 川〕	社会医療法人財団大樹会 総合病院 回生病院 坂出市立病院
〔愛 媛〕	愛媛十全医療学院附属病院
〔福 岡〕	柳川リハビリテーション病院 医療法人社団筑山会 福岡病院 社会医療法人財団池友会 香椎丘リハビリテーション病院 社会医療法人北九州病院 北九州総合病院 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院
〔長 崎〕	医療法人伴師会 愛野記念病院
〔大 分〕	社会医療法人敬和会 大分岡病院
〔宮 崎〕	独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院
〔鹿児島〕	公益財団法人慈愛会 徳之島病院 社会福祉法人たちばな会 医療福祉センターオレンジ学園 公益社団法人いちょうの樹 メンタルホスピタル鹿屋

以上 61 施設

2022 年度 MTDLP 推進協力強化校・推進協力校

2022 年度に MTDLP 推進協力強化校および推進協力校として承認した学校養成施設を公示する。

〔MTDLP 推進協力強化校〕 1 校

帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科

〔MTDLP 推進協力校〕 1 校

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 作業療法学科

以上 2 校

2022 年度 WFOT 審査結果

(2023 年度提示社員総会時提示資料)

2022 年度に WFOT 認定校として認定した学校養成施設を公示する。

【継続校】 25 校

北都保健福祉専門学校
弘前医療福祉大学
東北文化学園大学
文京学院大学
埼玉県立大学
東京家政大学
千葉県立保健医療大学
東京医療学院大学
北里大学
新潟リハビリテーション大学
専門学校富士リハビリテーション大学校
聖隷クリストファー大学
常葉大学
藤田医科大学
国際医学技術専門学校
理学・作業名古屋専門学校
大阪保健医療大学
大阪医療福祉専門学校 夜間部
YMCA 米子医療福祉専門学校
リハビリテーションカレッジ島根
島根リハビリテーション学院
県立広島大学
西九州大学
長崎大学
沖縄リハビリテーション福祉学院

【新設校】 3 校

鈴鹿医療科学大学
高知リハビリテーション専門職大学
福岡国際医療福祉大学

以上 28 校

※ 2023 年 5 月 1 日現在の情報をもとに作成しています。



2022 年度精神科における作業療法実態調査 結果報告

制度対策部では臨床での作業療法の実態把握のため各種調査を行っており、精神科については、例年、会員が所属する精神科病院の作業療法士を対象に調査を行っています。今回は 2022 年 11 月に行った調査について概要を報告します。

調査概要

調査期間：2022 年 11 月 28 日～12 月 16 日

対象施設数：1,306 施設

有効回答数：635 施設

回 答 率：48.6%

調査結果

1) 病院基本情報

病院基本情報、作業療法部門の状況は昨年度までと大きな変化はありませんが、法人で所有している施設のうち、介護保険サービス、重度認知症デイケアが微増していました。

精神科作業療法について、作業療法士 1 名当たりの 1 日の算定人数は平均 18.36 人*で、2018 年度調査では 19.6 人、2021 年度調査では 18.95 人だったので、わずかに減少しています。

なお、1 施設の作業療法士数の平均は常勤 9.27 人、非常勤

0.28 人。精神科作業療法の登録実人数の平均は 5.38 人（最大 23 人）、精神科デイケアの登録実人数の平均は 1.69 人（最大 24 人）でした。

* 2022 年 12 月 2 週目の平均。1 日の精神科作業療法実施件数を精神科作業療法登録作業療法士数で除した数値

2) 病棟配置

今回初めて病棟配置の状況について調査項目としました（図 1）。7 割が病棟を担当の基本としており、対象者との治療関係の構築のしやすさや同じ病棟を担当する他職種との連携のしやすさがメリットとして挙がる（図 2）一方で、作業療法プログラムや環境調整等が担当者の力量次第になりやすいことやほかの作業療法士との情報共有が課題として挙げられました（図 3）。

3) 精神療養病棟における疾患別リハビリテーション

令和 2 年度（2020 年度）診療報酬改定にて、精神療養病棟の入院患者に疾患別リハビリテーション料の算定が可能となりました。改定後療養病棟での疾患別リハビリテーションの算定を開始したのは 1 割でした（図 4・図 5）。

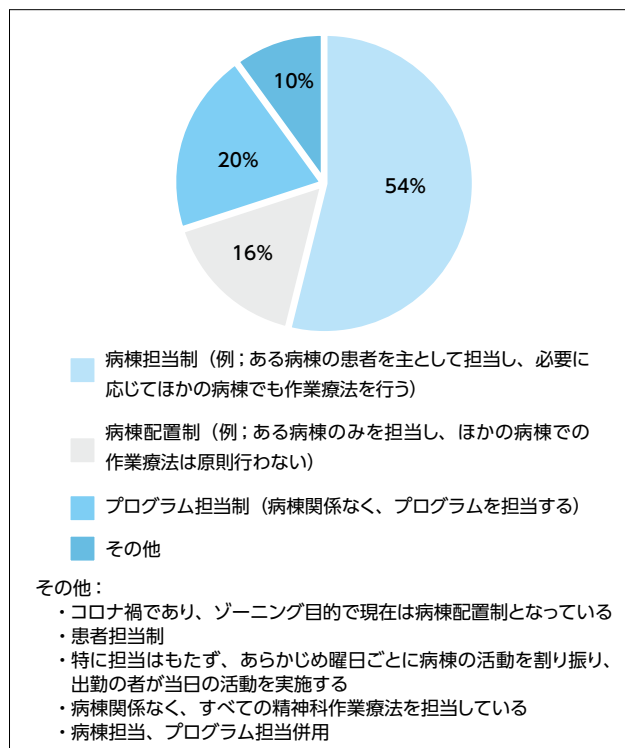


図 1 病棟配置の状況

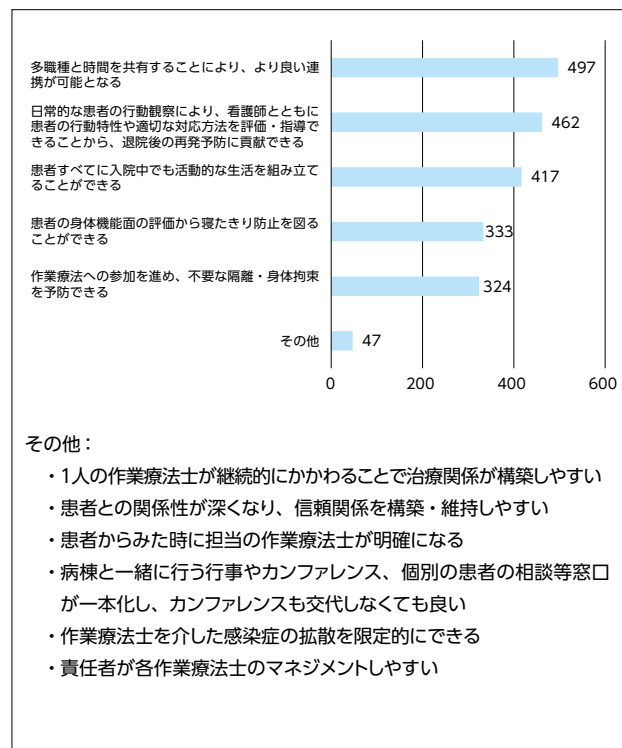


図 2 作業療法士が病棟配置（病棟担当）することのメリット

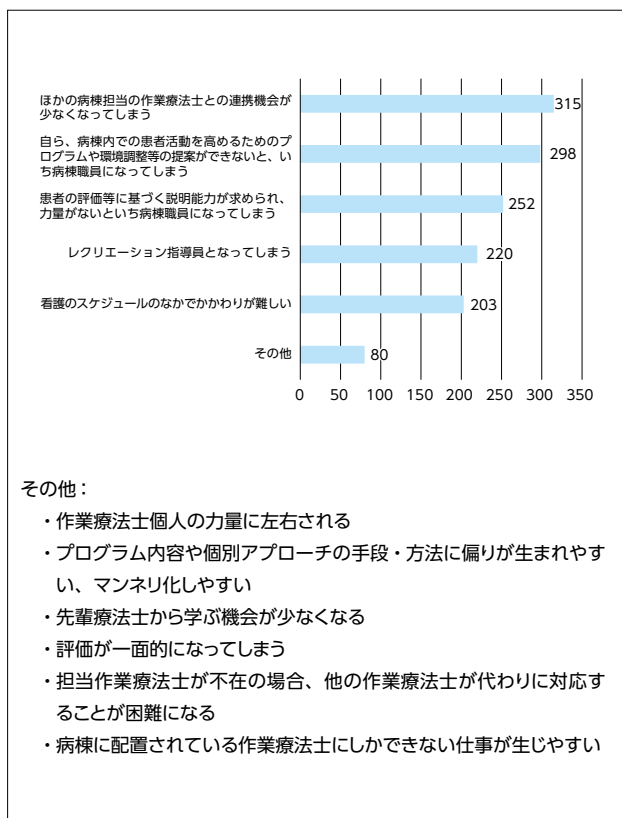


図 3 作業療法士が病棟配置（病棟担当）することのデメリット

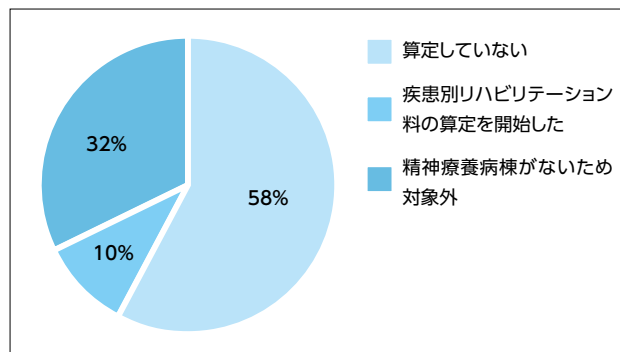


図 4 精神療養病棟での疾患別リハビリテーション料の算定の状況 (n=602)

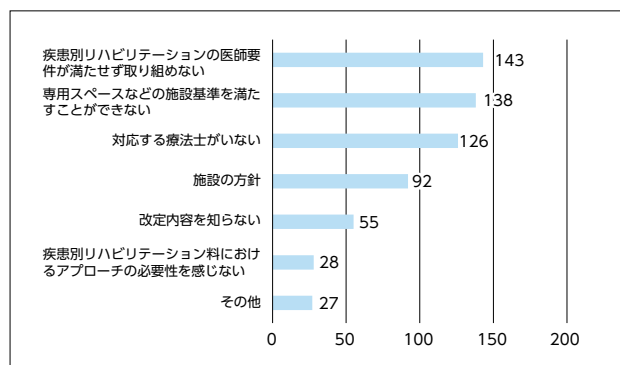


図 5 算定していない理由

4) 慢性療養者の医療・支援のあり方

作業療法の対象者は 6 割以上が 1 年以上の慢性期患者です。3 ヶ月以上 1 年未満の回復期の対象者への作業療法と比較して、慢性期の目的は精神・身体機能の維持・廃用症候群の防止が最も多い等の違いはありますが、実施内容はどちらも手工芸・創作・芸術活動が最も多く、次いで身体運動活動（体操やスポーツ等）でした（図 6・図 7）。入院 1 年以上の慢性期の患者が退院できるように必要な取り組みとしては、本人が退院後の生活をイメージできる支援が最も多く挙げられました（図 8）。

5) 精神科作業療法計画の作成の現状

精神科作業療法計画の作成については、近年毎年調査しています。作成の割合は 2020 年度 75%、2021 年度 77%、2022 年度 79% と少しずつ増加しています（図 9・10）。計画への合意については対象者の状況を踏まえた工夫をしながら説明が行われていることが窺えました（表 1）。また、カンファレンスについては「すべてのカンファレンスに参加」「一部の対象者のカンファレンスに参加」の計が 2020 年度は 87% だったものが、2022 年度は 93% と増加しています（図 11）。

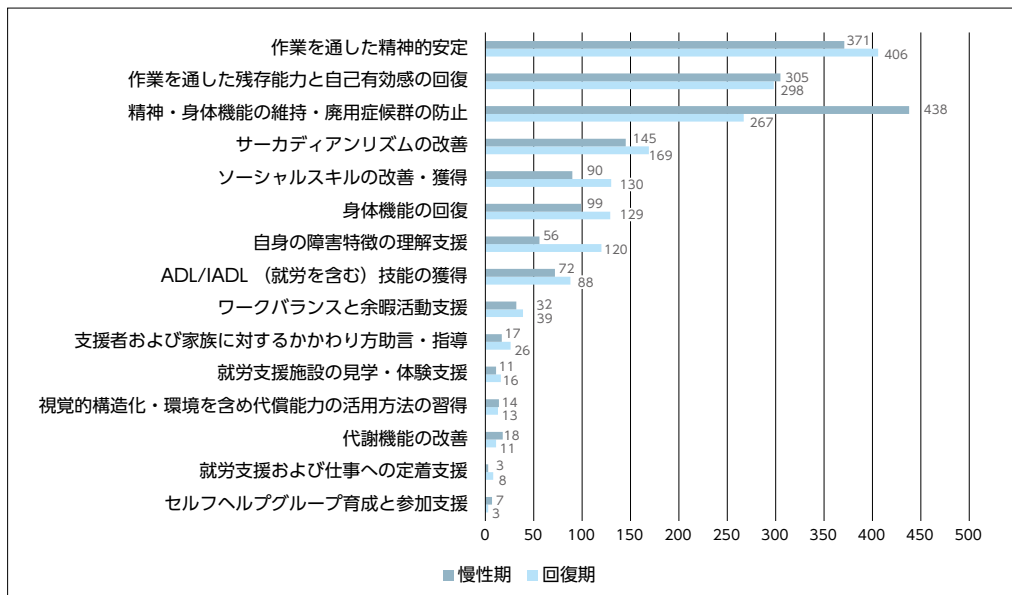


図 6 入院3ヵ月以上1年未満の回復期と入院1年以上の慢性期における作業療法の目的

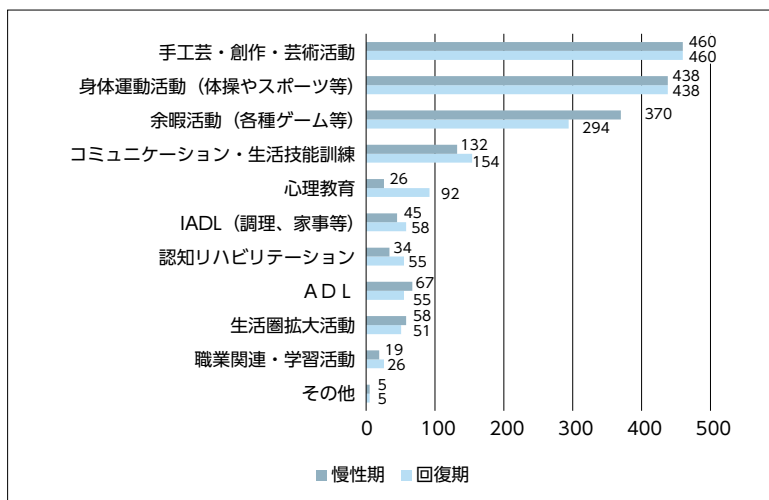


図 7 入院3ヵ月以上1年未満の回復期と入院1年以上の慢性期における作業療法の実施内容

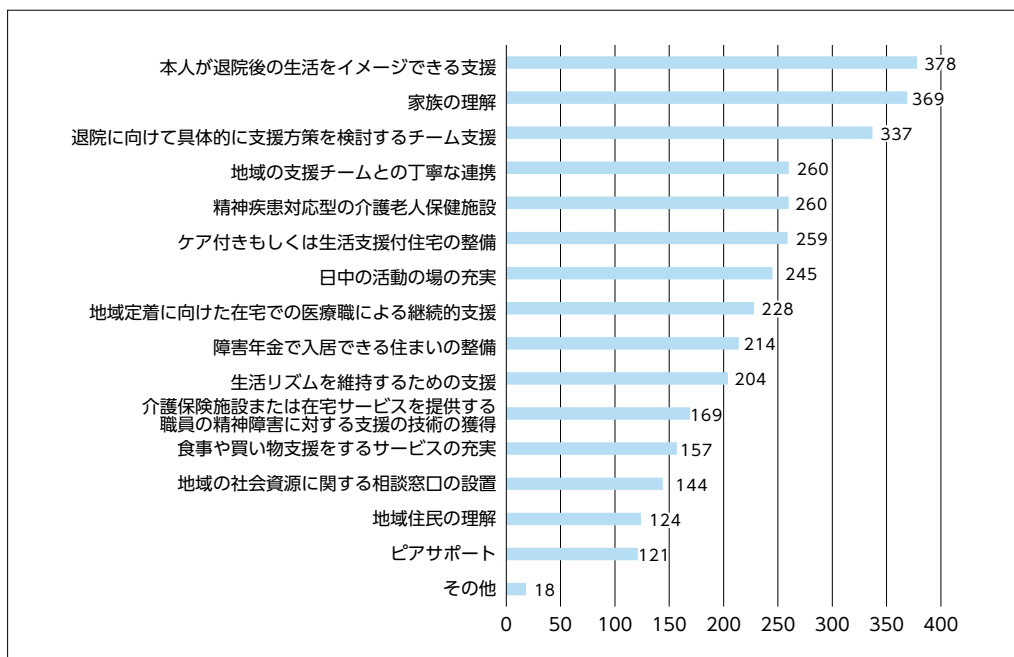


図 8 入院1年以上の慢性期の患者が退院できるために必要な取り組み *複数回答

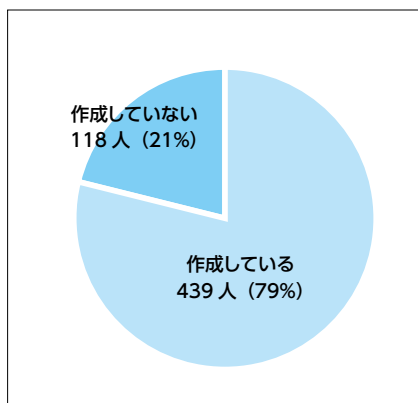


図 9 作業療法計画の作成有無 (n=557)

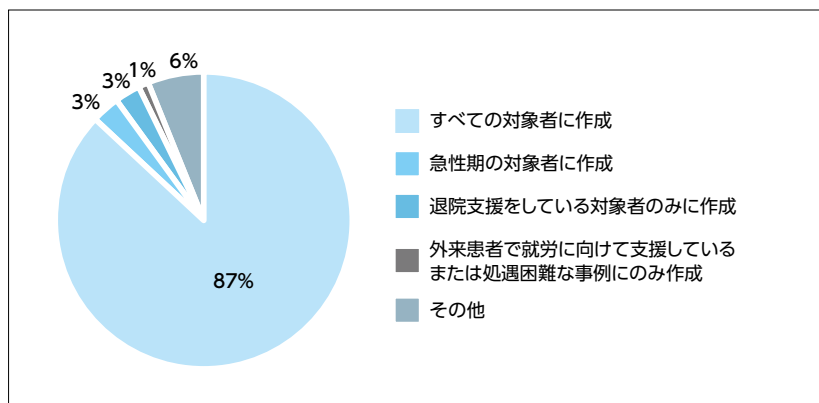


図 10 計画を作成している対象者

6) 不適切な隔離・身体的拘束をゼロとする取組について

2022年6月に取りまとめられた「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会報告書」の各項目について、作業療法士の関与を調査しました。ここではそのうちの不適切な隔離・身体的拘束をゼロとする取り組みについて掲載します。

隔離・拘束に関する研修は8割以上が受講しており(図12)、約4割が行動制限最小化委員会に参画していました(図13)。7割の病院で隔離・拘束の患者への作業療法が実施されており(図14)、その作業療法が隔離・拘束の解消や期間短縮に有効と回答したものは約3割でした(図15)。

表 1 精神科作業療法計画の合意について (n=429)

計画を立案した対象者全員に、内容をひととおり説明し合意を取っている	135 (31%)
対象者用に簡易化した書類を別途作成し、説明、合意を得ている	114 (27%)
対象者の精神機能が著しく低下しており、説明をしても合意が得られないことが予測されるため、取っていない	76 (18%)
対象者の精神機能が著しく低下しており、説明をしても合意が得られないことが予測されるため、家族に説明し合意をとっている	12 (3%)
対象者に説明し、合意を取ることを考えたことがない	21 (5%)
よくわからない	15 (3%)
その他	56 (13%)

その他：

- ・対象者の理解度に応じて説明内容を変更している。
- ・個人作業療法では同意を取る。集団は対象者による。
- ・書面にはしていないが、参加予定と大まかな活動内容をご本人と決める。
目的については準備性のある方については共有している。

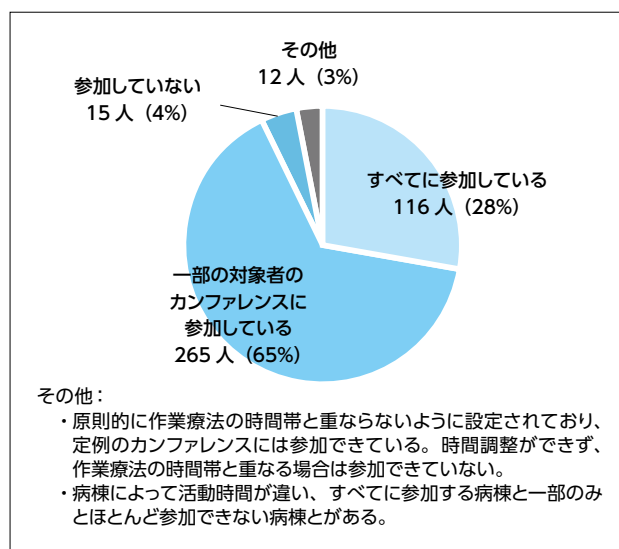


図 11 医師他チームでの支援方針に関するカンファレンス（ミーティング）の有無と参加 (n=433)

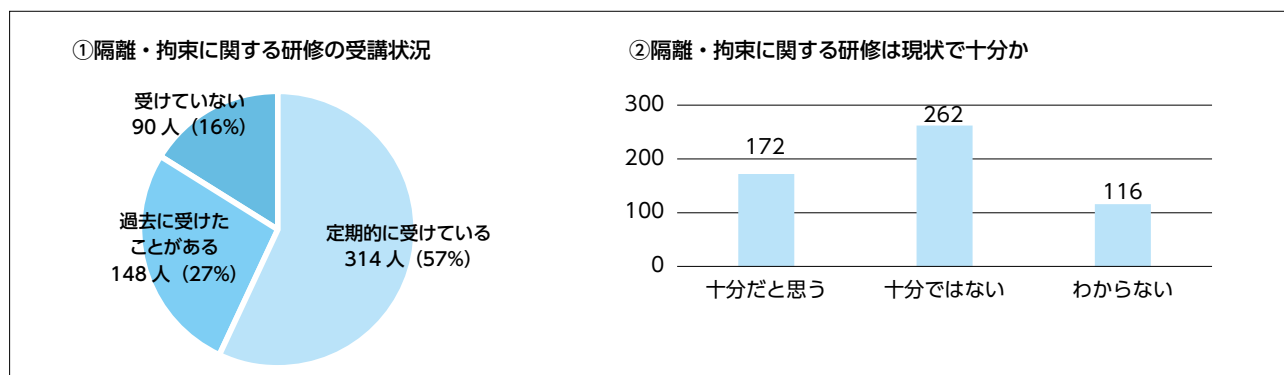


図 12 隔離・拘束に関する研修の受講状況と意見

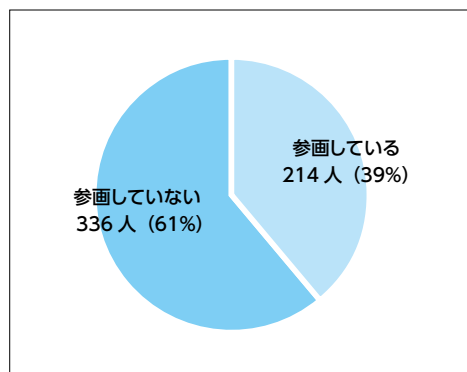


図 13 作業療法士の行動制限最小化委員会への参画

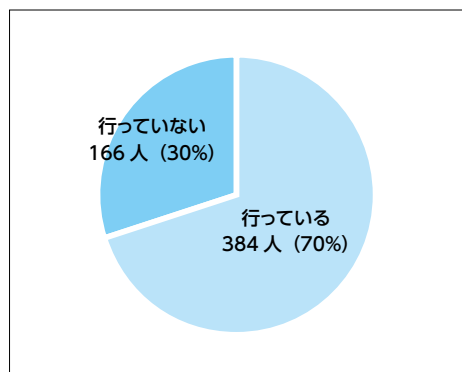
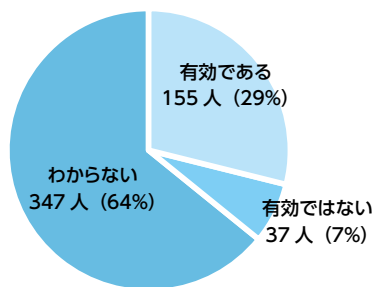


図 14 隔離・拘束されている患者への作業療法の実施

(1) 作業療法で得られた情報が隔離・拘束の解消または期間減少につながっているか (n=540)

つながっている	191 (35%)
つながっていない	71 (15%)
わからない	278 (52%)

(2) 隔離・拘束に対する作業療法のプログラムは有効か (n=539)



(3) 有効と考えられる理由やその具体的な作業療法

- ・作業療法参加により一時的な隔離・拘束の解除となり、行動範囲が拡大される。医師や看護師と情報共有になる。
- ・一時的（試験的）な拘束解除の場として、集団活動を利用しており、拘束解除の一つの判断になり得ている。
- ・現実感の獲得や、病的体験からの回復に作用。
- ・ベッド上や処置中の危険体動に対して都度関与が可能なため、安楽で苦痛のないポジションの獲得は患者の心身の安定に寄与する。
- ・作業を用いることで、一時的にはあるが、精神症状が軽減される患者が一定数いる。隔離・拘束からの解除に一段階として作業療法実施は有効と思われる。
- ・隔離解除に向けての集団内での過ごし方、本人への影響、ストレス対処等、スタッフが見守っている状態で確認ができ、早期に隔離解除ができる。
- ・自傷他害のある患者が一時でも作業に集中することで周囲の見方が変わる。
- ・枠がしっかりしているので職員の目が届きやすく、関係性も築きやすい。転倒予防の拘束は身体機能面や行動特徴とセットで評価でき、最小化をチームで検討できる。何か作業をしていたほうが、問題行動が出づらい方が一定数いる。

図 15 隔離・拘束の解消や期間短縮に対する作業療法の有効性について

まとめ

精神科の作業療法実態調査は毎年行っていますが、今回も多くの方に回答のご協力をいただきました。ありがとうございました。計画作成やカンファレンス参加等、毎回尋ねている項目は経年の変化を追うことができおり、実践の着実な推進を数値で示せる

ことは施策要望等において非常に大きな力になります。今後も引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

誌面の都合上割愛した項目が多くあります。結果の全体版は会員ポータルサイトに掲載していますので、ぜひご確認ください。



2023 年度第 4 回定例理事会 抄録

日 時：2023 年 7 月 15 日（土）13：00～16：47

方 法：Zoom システムによる Web 会議

出 席：山本（会長）、大庭、香山（副会長）、池田（望）、酒井、清水、関本、高島（千）、谷川、早坂、村井（常務理事）、池田（勝）、上田、島崎、高橋、竹中、辰己、谷口、土居、能登、二神（理事）、岩瀬、澤、長尾（監事）

陪 席：東、小賀野、宮井、岡本、杉田（潤）、茂呂、岩花（事務局）

I. 報告事項

1. 議事録

- 1) 2023 年度第 3 回定例理事会（6 月 17 日） 書面報告
- 2) 理事会の決議の省略（7 月 4 日） 書面報告

2. 職務執行状況報告

- 1) 山本伸一会長 書面報告
 - (1) 会員の入退会 書面報告
 - (2) 他組織・団体等の協会代表委員名簿（2023 年度：7 月三役会現在） 書面報告
 - (3) 政治活動に関する士会への説明会について 7 月 7 日に Zoom による説明会を実施し、全国から 171 名が参加。オンデマンド配信も行った。
 - (4) 「リハ専門職の処遇改善等に係る地方選出国議員等への訪問について」依頼文書（発出版） 書面報告
 - (5) システム開発工程におけるデータ移行追加作業の費用負担について 新システムにおけるデータベースの統合にあたり「移行データ設計書」に不備が見つかり、追加のデータ移行作業が必要となった。業者側と交渉を重ねた結果、費用は折半とした。
- 2) 大庭潤平副会長 書面報告
 - (1) 2023 年 5 月期の収支状況について 国家試験合格者は過去 4 年では最も多いが、5 月の入会者数は 891 名と直近 5 年間で最も低い状況になった。
 - (2) 2024 年度収入予測について 2024 年度の収入は、過去 10 年間の傾向を根拠に算定した結果、8 億 2,719 万 1,400 円と予測している。
 - (3) 2024 年度予算案の審議スケジュールについて「2024 年度予算の審議スケジュール」を作成した。
 - (4) 公式な協会組織図と内部資料について 公式な協会組織図と、各部・委員会等で説明する際に利用可能な内部資料を作成した。公式な協会組織図については、本会のホームページにて公表する。
 - (5) 飯田賞の推薦と審査結果について 書面報告
- 3) 香山明美副会長 書面報告
 - (1) 第 7 回日本リハ医学会秋季学術集会合同シンポと今後の同学会からの依頼の対応について リハ医学会から依頼があった合同シンポジウム企画については認知症

をテーマに準備を行っている。今後、同学会より同様の依頼が来た場合には、学部部で対応する。

- (2) 令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者推薦について 該当者がいなかったため今回の推薦は行わないこととした。
- 4) 三澤一登副会長 書面報告
 - (1) 渉外活動報告 書面報告
- 5) 酒井康年常務理事 生活行為工夫モデル事業を活用した明石モデルは予定どおり進んでいる。また、パラスポーツの中級講習会も開催に向けて準備を進めている。
- 6) 関本充史常務理事 よんぱちに関しては、「協会員＝士会員」実現のための具体的なタイムスケジュールを示すために準備を進めている。
 - (1) 訪問リハビリテーション振興委員会／訪問リハビリテーション振興財団報告 訪問リハ振興委員会では、8 月 26 日に第 14 回訪問リハ・地域リーダー会議の開催が確定。訪問リハ振興財団の研修班では、7 月 22 日、23 日に管理者養成研修会、8 月 26 日に実務者研修会を実施する。
- 7) 清水兼悦常務理事 書面報告
 - (1) 事例報告登録制度：一般事例の審査状況と今後の対応について 現在、再報告された 133 事例について順次審査依頼を進めており、審査依頼の終了は 2023 年 12 月頃と予測。事例を蓄積し、作業療法の成果を示すための体制整備については、継続して検討していく。
- 8) 早坂友成常務理事 臨床実習指導施設認定審査および臨床実習指導者実践研修修了認定申請審査に関する承認を行った。教育部関連では全国作業療法士養成校連絡協議会や東京都作業療法士養成校連絡協議会に出席し、情報共有と質問に対する回答を行った。
- 9) 高島千敬常務理事 書面報告
 - (1) 全国リハビリテーション医療関連団体協議会からの令和 6 年診療報酬改定要望 今回は 9 団体から 2 つずつ要望を挙げ、そのなかから重点要望項目を絞り込み、6 つを要望することになった。そのうち、「2. 診療報酬における施設外リハビリテーションの推進」が本会から挙げたものだ。

- 10) 谷川真澄常務理事 地域社会振興部の3課6セクションにおいて、部長、統括課長、各セクションのリーダーを決定した。7月に入ってから豪雨災害に対する支援については、事務局と対応を検討している。
- 11) 池田望常務理事 6月2日に開催された第48回日本精神科看護協会学術集会に会長代理として出席した。
- 12) 村井千賀常務理事 書面報告
 - (1) 渉外活動報告 書面報告
 - (2) 業務執行報告 今年度のMTDLP指導者数は265名で、昨年度から20名近く増加。令和4年度老人保健健康増進等事業関連では、本研究報告会を10月21日に実施する。昨年度作成した「認知症のリハビリテーション」の周知パンフレットを各都道府県医師会に配布する予定。令和5年度老人保健健康増進等事業については検討委員会を8月6日に開催する。
3. その他理事活動報告
 - 1) 渉外活動報告 書面報告
4. 委員会等の活動報告
 - 1) 教育関連審査会 書面報告
 - 2) 組織率対策委員会 書面報告
 - 3) 「協会員＝士会員」実現のための検討委員会 書面報告
 - 4) APOTC 実行委員会 書面報告
 - 5) 倫理委員会 書面報告
 - 6) 地域共生社会対策委員会 書面報告
 - 7) MTDLP 事例審査会 書面報告
 - 8) 学術誌編集委員会 書面報告
5. その他の報告
 - 1) 日本作業療法士連盟活動報告 書面報告

II. 決議事項

1. 2024年度重点活動項目について（香山副会長、小賀野企画調整担当） 本年度の重点活動項目の実施状況および来年度の5ヵ年戦略の工程表を踏まえ、来年度の重点活動項目の方向性について審議を開始。理事会の意見を踏まえ、8月常務理事会で検討し、10月理事会に事務局案を提案。遅くとも12月理事会で承認の運びとする。
→承認
2. 理事の担当職務に関する一部修正・追加について（山本会長） 前回理事会で承認いただいたが、実態に合わせて一部修正・追加をする。 →承認
3. 特定個人情報取扱規程の改定について（大庭副会長） 新体制に合わせた新たな部署名と職位に変更。また、担当者がかかるたびに規程を改定する煩を避けるため、規程本文に個人名を記載することはやめ、内規を定めて、そこに担当者名を明記する。 →承認
4. 学術委員会内 ICF データ収集分析システム検討小委員会の設置について（清水常務理事、村井常務理事） 学術委員会内に ICF データ収集分析システム検討小委員会を設置する。 →承認
5. 委員会等の構成員の承認について
 - 1) 広報戦略委員会
 - 2) 災害作業療法検討推進委員会
 - 3) 倫理委員会
 - 4) 教育関連審査会
 - 5) 課題研究審査会
 - 6) MTDLP 推進委員会
 - 7) 学術誌編集委員会：AsJOT 査読者
 - 8) 学術委員会内 ICF データ収集分析システム検討小委員会
 - 9) 選挙管理委員会
 - 10) 教育審議委員会
 - 11) 精神科の作業療法あり方委員会
 - 12) 認知症バリアフリー社会推進委員会
（山本会長） 10委員会と2審査会の構成員を承認願いたい。 →承認
6. 障害者虐待に対する日本作業療法士協会としてのアクションについて（山本会長） これまでの検討を踏まえて三役案を提案。会員向けのメッセージとしてホームページにて公表する。 →字句の一部修正および会員・都道府県作業療法士会へのメール配信を含めて承認
7. 学術誌『作業療法』の発行形態と配付方式について（清水常務理事） アンケートの回答結果および現在の紙媒体配付希望者数より、紙媒体と電子データでの発行、希望者に無料配付という現在の発行・配付方式を継続する。
→次年度分については承認
8. 2024年度がんリハ研修会開催について（竹中理事） 次年度の開催時期を4月とし、その準備を今年度から行う。4月開催の申込施設数が開催最低施設数を満たさない場合は開催時期を延期し、秋頃とする。 →承認
9. 「作業療法士教育の教育水準」（改訂第5版）の一部修正について（竹中理事） 2023年度WFOT認定校審査において、「作業療法士教育の教育水準」（改訂第5版）の一部修正をし、改訂第5.1版とする。
→一部字句の記載の要否について後に報告することとして承認
10. 『作業療法士の職業倫理指針』の改訂について（大庭副会長） 時代の変化と作業療法の新定義に合わせることを基本方針として改訂案を示す。 →継続審議
11. その他



2023 年度 協会主催研修会案内

開催が決定しているもの、調整中のものを下記に記載いたします。状況により変更があることもご承知おきください。
最新情報はホームページをご確認ください。

*は新規掲載、もしくは情報が更新されたものです。

※研修会の申し込みは、2023年度会費の納入後に行っていただきますようお願いいたします。

認定作業療法士取得研修 共通研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程(予定を含む)	定員数
研究法⑦	2023年11月18日(土)～11月19日(日)	50名
研究法⑧	2023年12月9日(土)～12月10日(日)	50名
研究法⑨	2024年1月13日(土)～1月14日(日)	50名
管理運営⑤	2023年10月28日(土)～10月29日(日)	55名
管理運営⑥	2023年11月25日(土)～11月26日(日)	55名
管理運営⑦	2023年12月23日(土)～12月24日(日)	55名
管理運営⑧	2024年1月27日(土)～1月28日(日)	55名
管理運営⑨	2024年2月3日(土)～2月4日(日)	55名
管理運営⑩	2024年2月17日(土)～2月18日(日)	55名

認定作業療法士取得研修 選択研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程(予定を含む)	定員数
身体障害の作業療法⑦	2023年11月25日(土)～11月26日(日)	60名
身体障害の作業療法⑧	2023年12月9日(土)～12月10日(日)	60名
身体障害の作業療法⑨	2024年1月20日(土)～1月21日(日)	60名
老年期障害の作業療法④高齢者に対する作業療法	2023年10月21日(土)～10月22日(日)	60名
老年期障害の作業療法⑤高齢者に対する作業療法	2024年1月27日(土)～1月28日(日)	60名
発達障害の作業療法② 地域で暮らす障がい児・者とその家族を支援する作業療法 ―他職種と協業するためには―	2023年12月16日(土)～12月17日(日)	40名
精神障害の作業療法② 急性期～維持期の実践マネジメント(事例検討)	2023年12月9日(土)～12月10日(日)	40名

作業療法重点課題研修

	講座名(仮題を含む)	日程(予定を含む)	定員数
*	英語で学会発表しよう！基礎編 ～抄録作成・質疑応答・多国籍コミュニケーションのポイント～	2023年10月22日(日)	40名
	国際的人材育成セミナー グローバル活動セミナー	調整中	40名
	日本パラスポーツ協会公認 中級パラスポーツ指導者養成講習会	2023年10月21日(土)～22日(日):座学 2023年11月25日(土)～26日(日):実技	40名
*	メンタルヘルスの問題から生きづらさを抱える人へ作業療法ができることを考える	2023年12月9日(土)～12月10日(日)	60名
*	障害を持つ子どもの家族支援における作業療法 ～ライフステージに合わせたそれぞれのターニングポイントでの関わり～	2024年1月21日(日)	60名

eラーニング講座

eラーニングシステムを使用します。各講座の申込期間について、詳しくは会員ポータルサイトをご確認ください。
※eラーニング講座に定員はありません。

講座名	日程(予定を含む)	申込締め切り
* 専門作業療法士(認知症) 取得研修 基礎Ⅰ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(高次脳機能障害) 取得研修 基礎Ⅳ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅰ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅱ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅲ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(訪問) 取得研修 基礎Ⅰ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 専門作業療法士(がん) 取得研修 基礎Ⅱ	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* がん・非がんの緩和ケア ～作業療法実践に必要な緩和ケアの知識～	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 英語での学会発表 抄録・ポスター・スライド作成はじめて講座	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 地域ケア会議に資する人材育成研修	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)
* 自転車運転と作業療法	2023年10月1日(日) ~ 11月30日(木)	9月5日(火)

生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】

現職者選択研修

講座名	日程	主催県士会	会場	参加費	定員	詳細・問い合わせ先
身体障害	2023年8月27日(日)	京都府	Web開催	4,000円	80名	詳細は、各都道府県作業療法士会ホームページをご参照ください。
* 老年期	2023年9月3日(日)	山口県	Web開催	4,000円	100名	
* 老年期	2023年9月3日(日)	福島県	Web開催	4,000円	50名	
身体障害	2023年9月23日(土)	静岡県	対面による研修	4,000円	100名	
老年期	2023年10月9日(月) 2023年10月15日(日)	奈良県	Web開催	4,000円	80名	
身体障害	2023年10月15日(日)	青森県	Web開催	4,000円	40名	
発達障害	2023年10月15日(日)	兵庫県	Web開催	4,000円	40名	
身体障害	2023年10月22日(日)	島根県	Web開催	4,000円	40名	
* 身体障害	2023年10月29日(日)	大阪府	Web開催	4,000円	70名	
老年期	2023年12月3日(日)	鹿児島県	Web開催	4,000円	40名	
* 発達障害	2023年12月17日(日)	岡山県	Web開催	4,000円	50名	詳細は、各都道府県作業療法士会ホームページをご参照ください。 感染状況によってはZoomによるオンライン研修のみに変更する場合があります。
* 老年期	2024年2月11日(日)	佐賀県	ハイブリッド開催	4,000円	Web参加定員:80名 会場:未定	

※現職者選択研修の受講には、日本作業療法士協会への入会とともに、各都道府県士会への入会も必要です。所属士会以外で受講される場合には、開催士会から所属士会へ入会状況の確認をさせていただくことがありますので、ご了承のうえ、お申込みください。

■ 詳細は、日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。

■ 協会主催研修会の問い合わせ先 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot-kenshu@jaot.or.jp

求人広告のお申込と出稿の方法

◆求人広告掲載のお申込は協会事務局まで

施設名、ご担当者名、住所、電話番号、Eメールアドレス、希望の作成パターン（A・Bよりお選びください）を記載のうえ、Eメールにて協会事務局 [kikanshi@jaot.or.jp] までお申し込みください。希望掲載号発行月の前々月末が申込締切となります。

A. 基本デザイン作成パターン

（費用＝版下作製費 0 円＋広告掲載料 13,000 円）

①～③の基本フォームからお好きなデザインを選択していただき、掲載情報のみご提供いただきます。文字内容の変更は受け付けますが、デザインの変更はできません。

① 作業療法士募集 【資格・経歴】 募集人員：●名 ※ 通：専1日 退職後：勤続5年以上 通勤：住宅 扶養手当あり 健康保険・厚生年金 雇用保険・労務保険 勤務時間：10:00～18:00（日勤） 20:00～22:00（夜勤） ※ 通：4 週5 休制 勤務時間：（夜勤）日・夜勤日・夏季休暇あり 夏季休暇・育児休暇・介護休暇 勤務時間：10:00～18:00 PTO・OT・有給・STO 応募方法：必ずお電話もしくはEメールにてお問い合わせください ※ 通：2 日（月・火） 勤務時間：10:00～18:00 （勤務時間外） 〒111-0042 東京都台東区南1-5-9 協栄ビル5F TEL: 03-5826-7871 FAX: 03-5826-7872 Eメール: kikanshi@jaot.or.jp	② 作業療法士募集 施設の種類、エリア その他情報等ご記入ください ○ 募集人員：募集人数 ○ 応募資格：作業療法士有資格者（経験○年以上） ○ 勤務時間：8:45～17:45（夜間部） 14:00～23:00（夜間部） ○ 休 日：週休2日制 日・夜勤日・夏季休暇あり ○ 特 遇：健康保険・厚生年金・雇用保険 ○ 応募方法：電話連絡の上、随時面接いたします 〒111-0042 東京都台東区南1-5-9 TEL: 03-5826-7871 FAX: 03-5826-7872	③ 新規事業所開設につき増員します ● 募集職種：作業療法士、OT ● 募集人数：1名（作業療法士） ● 勤務時間：10:00～18:00（日勤） ● 勤務時間：10:00～18:00（夜勤） ● 休 日：専1日・夜勤日・夏季休暇あり ● 特 遇：健康保険・厚生年金・雇用保険 ● 応募方法：電話連絡の上、随時面接いたします 〒111-0042 東京都台東区南1-5-9 TEL: 03-5826-7871 FAX: 03-5826-7872 Eメール: kikanshi@jaot.or.jp
---	--	--

B. オリジナル版下支給パターン

（費用＝版下作製費 0 円＋広告掲載料 13,000 円）

指定する要領（幅 82mm×高さ 122mm）で完全版下をご提供いただいた場合も、版下作製費は発生いたしません。

※複数月掲載の際、デザイン変更を希望され、作業が発生した場合は別途版下代をいただく場合がありますのでご注意ください。また、オリジナルデザインでの版下作製も受け付けておりますので、ご相談ください。

訃報連絡

長年にわたり作業療法の臨床と研究に従事し、教育において多くの後進を指導され、また協会活動においても教育部を中心として尽力されてきたご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

会員番号 935

瀨 雅子（福岡県）

2023 年 6 月 16 日逝去



日本作業療法士連盟だより

連盟ホームページ▶<http://www.ot-renmei.jp/>

作業療法士の可能性

愛知県稲沢市市議会議員 ^{しち おう} 志智 央



初めまして。作業療法士で市議会議員をしている志智と申します。私は急性期病院で6年働いた後に、28歳で選挙に挑戦し、現在2期目の活動をしています。

「人の役に立ちたい」「心や身体の回復にかかわりたい」との思いで病院に就職しました。病院で最も驚いたことは、病や障害のある人が数多くいらっしゃるという現実でした。私の家は、祖父が障害者となり、祖母が介護疲れの末に亡くなりました。「特殊な家庭」だと思っていた私の家のようなケースはごくありふれた、どここの家庭でも起こりえることだと知りました。

病気や障害者になると、本人だけでなく家族の人生までもが大きく変わってしまいます。私たち作業療法士は障害者になった「後」にかかわることが多いですが、「障害の予防は常に障害の軽減や治療より望ましい」と言われるように、なる「前」の予防も重要です。そう考え始めたときに、市の介護予防教室を見学する機会を得ました。期待して見に行った先で行われていたのは医学的根拠からはほど遠い内容の運動で、ショックを受けました。しかし、ここに作業療法士が入れば、病院にいる人だけではなく、この町に住むすべての人の健康

に貢献できるかもしれないという可能性も感じました。

以上の経緯から選挙に挑戦し、市議会議員に当選。早速このことに取り組み、コグニサイズ等の介護予防プログラムの導入にこぎ着けました。作業療法士と議員は一見つながりがないようにみえますが、対象者に直接かかわることができなくても、その人を取り巻く環境や制度にかかわることで、その人の目標や作業を手助けしています。

今後、作業療法士兼議員の仲間が増えることを心から願っています。一方で、私自身が選挙で当選するために多くの苦労をした経験から、それが一筋縄ではいかないことを理解しています。大分県作業療法士連盟のように、盛んに活動しておられる事例が全国に広がることを期待していますし、作業療法士が議員に挑戦するに当たり、何かお手伝いできることがあれば微力ながらかわらせていただきたいです。医師や看護師のように、一般の人にも「作業療法士」の存在が認知されるように、社会における影響力を高めていきたいですね。

※作業療法士議員として、先に連盟だよりで紹介した6名の議員に加えて、志智議員は7名目の現職議員となります。

医療福祉eチャンネルの単位認定番組

1 講座あたり1.5時間の単位認定



●現職者共通研修

1. 作業療法生涯教育概論
2. 作業療法における協業・後輩育成
3. 職業倫理

※日本作業療法士協会会員ポータルサイトに反映されます

4. 保健・医療・福祉・地域支援
5. 実践のための作業療法研究
6. 作業療法の可能性
7. 日本と世界の作業療法の動向
8. 事例報告と事例研究

●生活行為向上マネジメント [基礎編]

生活行為向上マネジメントマニュアルを用い、その概論、各種シートの使用方法を学びます。

医療福祉eチャンネル(<https://www.ch774.com/>)での単位認定には「履修登録」「受講管理料」が必要です。詳しくは「日本作業療法士協会の皆さまへ」(<https://www.ch774.com/pages/ot/>)をご覧ください。



編 集 後 記

日当たりの良い場所に置いて、水も適量を適度にあげていたはずなのに、なぜか弱っていく観葉植物がありました。植物店の店主に訊くと、風が足りない、とのこと。見逃されがちですが、空気がよく動くことが思った以上に植物にとって大事なのだそう。風の通る場所に置いてみたら少しずつ元気になっていきました。

過去に起きた医療機関や障害者施設での虐待事件も含め背景の一因として共通するのは、その施設が地域から孤立して独自の文化を形成してしまう状態にあったこと、とされています。窓を開けて外の空気を入れることは組織の健康を保つためにも必要なのでしょう。

では、自分がその組織の一員だったら？ 大事な友達がそのなかにいたら？ 虐待とまでは言えないけれど気になる対応を目にしたら……？ 自分だったらどうするだろう、と考えた時に、まず思うのは、一人では難しくても誰か仲間がいれば何かできるかも、ということでした。

傍観は動かない空気のようなものかもしれません。ささやかでも風を起こせるように、近しい人と人権について話をするところから始めようと思います。

(遠藤)

本誌に関するご意見、お問い合わせがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■ 2022 年度の確定組織率

56.8% (会員数 61,799 名 / 有資格者数 108,872 名*)

※ 2023 年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した 2022 年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。
(前月号 (第 136 号) に記載した 2022 年度有資格者数に誤りがあったので修正しました)

■ 2023 年 7 月 1 日現在の作業療法士

有資格者数 113,665 名*

会員数 62,687 名

社員数 246 名

認定作業療法士数 1,381 名

専門作業療法士数 (延べ人数) 152 名

■ 2023 年度の養成校数等

養成校数 203 校 (208 課程)

入学定員 7,685 名

※ 有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者を加え、2022 年度までの死亡退会者数 (280 名) を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌 (毎月 1 回発行)

第 137 号 2023 年 8 月 15 日発行

□ 発行人: 山本 伸一

□ 制作広報室

室長: 東 祐二

担当: 宮井 恵次、遠藤 千冬、岩花 京太郎、大胡 陽子

□ 制作・印刷: 株式会社サンワ

□ 発行 一般社団法人 日本作業療法士協会

〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872

E-mail kikanshi@jaot.or.jp 協会ホームページ <https://www.jaot.or.jp/>

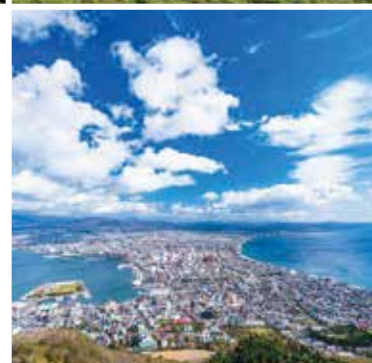
□ 求人広告: 1/4 頁 1 万 3 千円 (賛助会員は割引あり)



● 協会ホームページに
機関誌の電子版を掲載しています



8APOTC.2024
th Sapporo. Japan



第8回 アジア太平洋作業療法学会

互いに支えあう地域づくり —持続可能で根拠に基づいた作業療法—

会期

2024年11月6日(水)ー9日(土)

会場

札幌コンベンションセンター

学会長

中村 春基

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

Ling-Hui Chang

アジア太平洋作業療法地域グループ 会長

INFORMATION

一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局



第8回 アジア太平洋作業療法学会
(APOTC2024)運営事務局



公式ウェブサイト





2023年8月15日発行 第137号